

群 教 セ	G10 - 01
	平25.249集
	小・道徳

小学校道徳の時間における 情報モラル読み物資料集の作成と活用

— 児童の情報モラルの意識を高める指導の充実を目指して —

長期研修員 前田 泰伸

キーワード 【道徳—小 教育の情報化 情報モラル教育 読み物資料集 指導資料集】

I 主題設定の理由

情報化の急速な進展に伴い、学校では児童がコンピュータやインターネット(以下「ネット」とする)、デジタルカメラなどの ICT を活用して学習するようになった。また、日常生活においても、携帯電話やスマートフォンを所持し、会話やメールのやりとりを楽しんだり、ネットに接続可能なコンピュータやゲーム機で遊んだりする児童が増えている。このように、児童は様々な情報機器と接し、情報社会の恵みを受けながら生活している。一方で、ネット上では、違法・有害情報が氾濫し、匿名の誹謗中傷などの問題が起こっている。特に、メールやネットに依存する中高生が増加し、ネット上の掲示板、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などのコミュニティサイト上での誹謗中傷が基でトラブルに発展するケースも見られる。これら情報社会における様々な問題に児童も影響を受け、ネットに依存する児童の増加や、携帯電話やスマートフォン、ネット上の掲示板を介してのいじめなどが社会問題となっている。

このような状況の中、児童に情報モラルを身に付けさせることは、喫緊の課題である。小学校学習指導要領では、総則及び道徳において「情報モラル」という言葉が用いられ、情報モラル教育と密接に関連付けながら指導を行う必要があると示されている。しかし、道徳の授業の中で情報モラルにかかわる授業が行われている例は少なく、児童の情報モラルの意識を十分に高めるまでには至っていない。それは、既存の副読本の中で、情報モラルに関する題材を扱った読み物資料の数が少ないことが一因として考えられる。また、教師が道徳の授業で情報モラルを題材とした指導を行う方法が分からないといった課題もあると考えられる。

協力校において実施した実態調査では、携帯電話やスマートフォンについては、約30%の児童が所持している。また、ゲーム機については、70%近い児童が所有し、毎日30分以上遊んでいるという実態が明らかになった。さらに、過去1年間に道徳の時間に情報モラルの指導を行ったことがあると回答した教師は17.6%程度に過ぎず、道徳の時間に情報モラルの指導が行われている例が少ないという、指導者である教師の課題も明らかになった。

このような課題を解決するために、本研究では情報モラル読み物資料を作成し、小学校道徳の時間に活用することとする。読み物資料の題材を児童の身近で起こりうる情報社会の問題とすることで、児童は、資料のできごとを自分のこととしてとらえ、興味・関心をもって学習活動に取り組み、情報モラルの意識が高まると考える。また、教師が道徳の内容項目と情報モラル教育の内容との関連を明確にし、指導のポイントを意識して学習活動を展開することで、児童の情報モラルの意識を高める指導の充実が図れると考える。

以上のことから、小学校道徳の時間において、児童の身近で起こりうる情報社会の問題を題材とした情報モラル読み物資料を作成し活用することで、児童の情報モラルの意識を高める指導の充実を目指したいと考え本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校道徳の時間において、児童の情報モラルの意識を高める指導の充実を目指すために、児童の身近で起こりうる情報社会の問題を題材とした情報モラル読み物資料を作成し、活用することの有効性を明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

1 児童の情報モラルの意識の高まり

児童の身近で起こりうる情報社会の問題を題材とした情報モラル読み物資料を作成し、それらを小学校道徳の時間に活用することで、児童の情報モラルの意識が高まるであろう。

2 児童の情報モラルの意識を高める指導の充実

教師用指導資料を作成し、道徳の内容項目と情報モラル教育の内容との関連を明確にし、指導のポイントを意識しながら学習活動を展開していくことで、児童の情報モラルの意識を高める指導の充実が図れるであろう。

Ⅳ 研究内容の概要

本研究は、情報モラル読み物資料集を作成し、小学校道徳の時間において児童の情報モラルの意識を高める指導の充実を目指したものである。

その手だてとして、児童の身近で起こりうる情報社会の問題を題材とした情報モラル読み物資料を児童の生活経験や実態調査の結果を踏まえて作成した。読み物資料は、道徳の内容項目「1.主として自分自身に関すること」「2.主として他の人とのかかわりに関すること」「4.主として集団や社会とのかかわりに関すること」と情報モラル教育の内容「自分を律し適切に行動できる正しい判断力」「相手を思いやる豊かな心情」「積極的にネットワークをよくしようとする公共心」とを関連させ、低学年、中学年、高学年で各3編、合計9編作成した。これらの読み物資料を道徳の時間の中で活用することで、児童の情報モラルの意識が高まることを授業実践を通して明らかにした。

また、「ねらい」「情報モラル指導モデルカリキュラムの目標とのかかわり」「資料のあらすじ」「指導のポイント」「他教科・領域、家庭・地域等との連携」「板書例」を載せた教師用指導資料を作成した。これらを道徳の時間の指導で活用して、教師が道徳の時間のねらいと情報モラル指導の目標とのかかわりを意識して実践することができ、指導の充実が図れることを明らかにした。

Ⅴ 研究のまとめ

1 成果

- それぞれの学年において、児童は資料の内容を身近に感じ、学習の内容に興味・関心を高くもち、意欲的に学習に取り組んだ。特に、低学年では、導入としてデジタル化した場面絵を大型テレビで提示したり紙芝居で提示したりするなど、資料提示の工夫をしたことで、児童は資料の内容を視覚的にとらえることができ、興味・関心を高めることができた。
- 児童の身近で起こりうる題材を扱ったことで、児童は資料の中のできごとを自分自身のこととしてとらえて考えることができた。授業で活用したワークシートからは、情報モラルの意識の高まりが感じられる記述が見られた。また、授業実践前と実践後のアンケート結果を比較し、「パソコンやゲームの利用時間を決めて守ること」「相手への影響を考えてメールや手紙を送ること」「みんなで使うものを大切にすること」などの項目において、情報モラルの意識の高まりが見られた。
- 道徳の時間のねらいや情報モラルの指導の目標とのかかわりや指導のポイントが明確になったことで、教師の手だてが具体化し、指導の充実が図れた。

2 課題

- 低学年、中学年、高学年という三つのまとまりで資料を作成したが、さらに細分化し、各学年の実態に応じた読み物資料を作成する必要がある。
- 道徳の時間と情報モラルの指導の二つのねらいと目標をもって学習活動を展開するため、バランスよく指導することが大切となる。

VI 研究の内容

1 小学校道徳の時間における情報モラル読み物資料の作成と活用について

(1) 道徳の時間における読み物資料の必要性

小学校学習指導要領解説道徳編には、道徳の時間は「道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深め、道徳的実践力を育成する」時間であると示されている。さらに、道徳的自覚については「道徳的価値を理解すること」「自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること」「道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うこと」の三つの事柄を押さえておくことが示されている。また、赤堀(2010)は道徳教育について「児童が道徳的価値について多様に感じ、考えを深め、学び合えるような共通の素材が必要となる。特に、授業の特質である集団思考を促すためには、1時間のねらいとする道徳的価値にかかわる問題場面、状況が含まれている共通の素材、資料が必要である」と述べている。つまり、道徳の時間は、児童が道徳的価値を大切なものととらえ、他人事でなく自分のことにおき換えて考えながら自己を振り返っていく時間であり、そのためには、資料の中で起こるできごとを資料の話だけにとどまることなく、自分の生活と比較しながら考えられる資料が必要である。文部科学省発行の読み物資料や道徳副読本1916編の資料内容を分析すると、情報モラルにかかわる題材を扱った資料は48編、携帯電話やインターネットの使い方など具体的な場面を扱った資料は14編と少ないことが分かった。以上のことから、児童の身近で起こりうる情報社会の問題を題材とし、道徳の内容項目と情報モラル教育の内容を関連付けた読み物資料を作成することが必要であると考えられる。

(2) 道徳の内容項目と情報モラル教育の内容とのかかわり

情報モラル教育の内容を「すべての先生のための『情報モラル』指導実践キックオフガイド(2007)(以下「キックオフガイド」とする)では、「知恵を磨く領域」と「心を磨く領域」の二つに分けている。「知恵を磨く領域」は、情報社会で安全に生活するための危険回避についての理解を深めると共に、セキュリティの知識・技術、健康への意識を高めることをねらいとしている。一方、「心を磨く領域」は、社会における正しい判断や望ましい態度を育てることをねらいとしている。

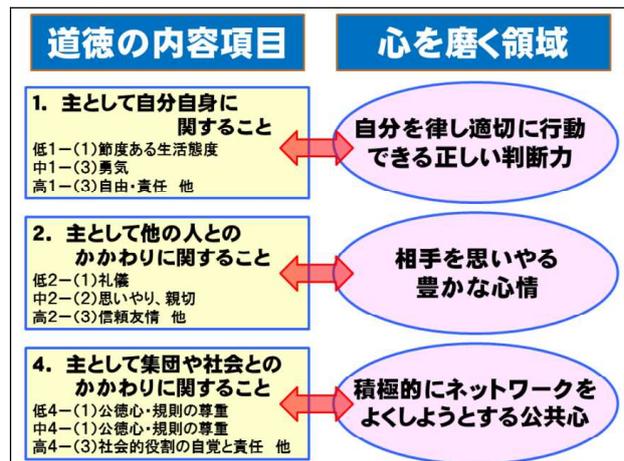


図1 道徳の内容項目と心を磨く領域

これまで、危機回避の方法を理解させる「知恵を磨く領域」については、教材や指導法が数多く紹介され、各教科や学級活動、総合的な学習の時間で行われてきた。しかし、児童生徒がネットやメールにかかわるトラブルに巻き込まれるケースは依然増加傾向にある。こうした問題を解決するためには、「心を磨く領域」について指導の充実が必要不可欠であると考えられる。キックオフガイドでは、この「心を磨く領域」ではぐくむべき内容を「自分を律し適切に行動できる正しい判断力」、「相手を思いやる豊かな心情」「積極的にネットワークをよくしようとする公共心」としている。これらの内容と道徳の内容項目をかかわらせた指導を考える(図1)。

モラルとは、倫理、道徳を意味する言葉であり(広辞苑)、道徳の内容項目の「2.主として他の人とのかかわりに関すること」「4.主として集団や社会とのかかわりに関すること」の「他の人」や「集団や社会」を「情報化社会」と置き換えて考えると「道徳の内容項目と情報モラル教育の内容とのかかわり」が分かりやすくなる。つまり、道徳の時間に、児童が情報モラルにかかわる生活体験を想起しながら、ねらいとする道徳的価値の自覚を深める指導を行うことが、情報モラル教育の内容である「心を磨く領域」を育成することにつながると思われる。

そこで、道徳の内容項目の「1.主として自分自身に関すること」と「心を磨く領域」ではぐくむべき内容の「自分を律し適切に行動できる正しい判断力」、「2.主として他の人とのかかわりに関

すること」と「相手を思いやる豊かな心情」、「4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること」と「積極的にネットワークをよくしようとする公共心」を、それぞれかかわらせて読み物資料を作成し、それらを小学校道徳の時間において活用しようとする。

(3) 情報モラル読み物資料について

情報モラル読み物資料は、低学年、中学年、高学年各3編、合計9編作成した。道徳の内容項目は、協力校の児童の実態を考慮し、「1. 主として自分自身に関すること」の中から1-(1)を、「2. 主として他の人とかかわりに関すること」の中から2-(3)を、「4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること」の中から4-(1)を選択した。これらの項目とかかわる情報モラルの指導の目標を「心を磨く領域」の内容に位置付けられている情報モラル指導モデルカリキュラムから選択した。なお、道徳の内容項目と情報モラル指導モデルカリキュラムの目標、及び道徳の時間のねらいを明記した、低、中、高学年別の読み物資料一覧は、表1、次頁表2のとおりである。

表1 低学年、中学年別読み物資料一覧

	資料名（主題名）	道徳の内容項目	読み物資料の内容
低 学 年	いけなかったえんそく （規則正しい生活）	1-(1) 節度ある生活態度	とらきちは、ゲームのやり過ぎで体調を崩し、遠足に行けなくなってしまった。布団の中でゲームをやり過ぎたことを反省し、自分の思いをお母さんに話し始める。 ● 基本的な生活習慣を身に付け、規則正しい生活をしようとする心情を養う。 ★ 決められた利用の時間や約束を守る。
	メールでなかなかおり （友達と仲よく）	2-(3) 信頼友情	とらきちは、うさこと公園で喧嘩をしてしまう。その後もメールで言い争ってしまうが、うさこのよいところを思い出して、なかなかおりのメールをする。 ● 友達のよさを感じ取り、身近な友達と仲よく助け合おうとする心情を養う。 ★ 相手への影響を考えて行動する。
	村のおしらせ板 （みんなが使う物）	4-(1) 公德心 規則の尊重	とらきちは、村のおしらせ板にいたずらをしてしまう。動物たちが悲しむ中、みんなの物を大切にできなかったことを反省し、いたずらがきを消し始める。 ● 約束やきまりをしっかりと守り、みんなが使う物を大切にしようとする心情を養う。 ★ 人の作ったものを大切にする心をもつ
中 学 年	まさおのなみだ （規則正しい生活）	1-(1) 節度ある生活態度	まさおはゲームのやり過ぎで体調を崩し、リレーの選手から外れてしまう。お母さんと一緒に帰り道、ゲームのやり過ぎを後悔し、生活態度を改めようと涙する。 ● 自ら考えて行動し、節度ある生活をしようとする心情を養う。 ★ 健康のために利用時間を決め守る。
	手紙とことば （大切な友達）	2-(3) 信頼友情	「わたし」は、手紙のやりとりが原因で、ゆきこと気持ちがすれ違ってしてしまう。その後、お母さんの助言を聞き、直接会って話をしてみようとする。 ● 友達同士互いに理解し合い、信頼し、助け合おうとする心情を養う。 ★ 相手への影響を考えて行動する。
	クラスの掲示板 （きまりを守って）	4-(1) 公德心 規則の尊重	ある日、つよしは、先生が設置してくれたクラスの掲示板に落書きがあるのを見付ける。その後、数人の友達から落書きを勧められるが、どうしようか考える。 ● 約束や社会のきまりを守り、公德を大切にしようとする心情を養う。 ★ 自分の情報や他人の情報を大切にする。 ★ 情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知る。 ★ 協力し合ってネットワークを使う。

●：本時のねらい ★：情報モラル指導モデルカリキュラムの目標

表2 高学年読み物資料一覧

	資料名（主題名）	道徳の内容項目	読み物資料の内容
高 学 年	大丈夫だよね (節制に心がけて)	1-(1) 節度ある生活態度	「ぼく」は、宿題やテストのことが気になるものの、自分に「大丈夫」と言い聞かせ、毎日遅くまでゲームをしてしまい、ゲームの魅力から抜け出せずにいる。 ●自らの生活を見直し、節度を守り節制に心掛けようとする心情を養う。 ★健康を害するような行為を自制する。
	見えない気持ち (友達の気持ちを考えて)	2-(3) 信頼友情 男女の協力	親友のサチからメールの返信が来ないことに腹を立てた「わたし」はサチを無視するようになる。しかし、ユリの助言から、サチのことを理解し、謝ろうと考える。 ●友達同士互いに信頼し合い、学び合って友情を深めようとする心情を養う。 ★他人や社会への影響を考えて行動する。 ★何が、ルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない。
	見つけた資料 (情報社会の約束)	4-(1) 公德心 規則の尊重	新聞づくりの課題に苦心している「わたし」は、ネット上の他人の作品をそのまま写して提出してしまう。その後、先生や友達に賞賛され、心が重たくなる。 ●公德心をもって社会のきまりを守り、自他の権利を大切にしようとする心情を養う。 ★情報にも、自他の権利があることを知り尊重する。 ★何が、ルール・マナーに反する行為かを知り絶対に行わない。 ★「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する。

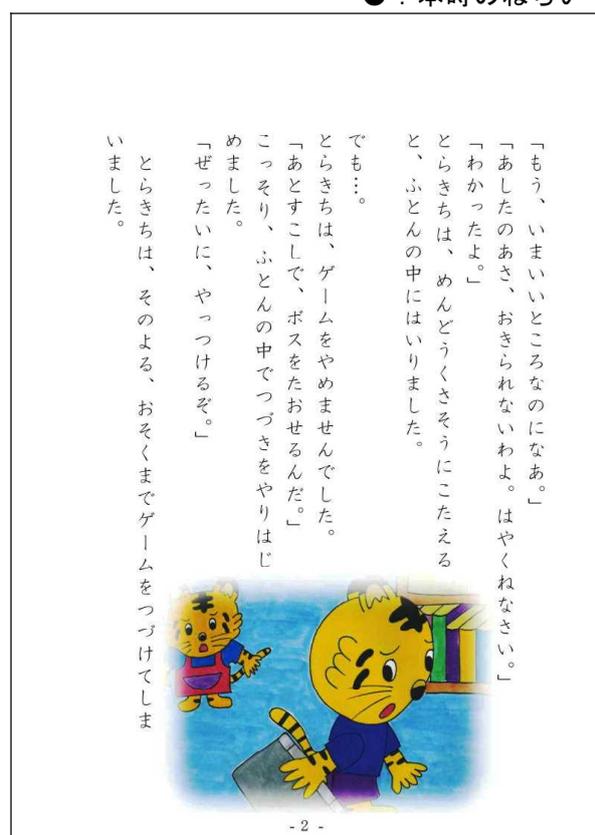


図2 読み物資料（低学年児童用の一部）

道徳の内容項目1-(1)にかかわる資料は、ゲームに夢中になる主人公を題材とした資料を作成し、低学年から段階的に扱うことで、早い段階から、ゲームに依存してしまうことの問題を自分の生活と結びつけて考えられるようにした。内容項目2-(3)にかかわる資料は、協力校における実態調査の結果を基に、低学年、高学年では、メールのやりとりの中で友達とトラブルを起こしてし

もう主人公を題材とした。また、中学年では、メールのやりとりの経験が少ないという実態を考慮し、メールの代わりに手紙のやりとりにした。

内容項目4－(1)にかかわる資料は、低学年、中学年では、ネット上の掲示板ではな児童の身近にある地域や教室内に設置されている掲示板を題材とし、資料の内容をわかりやすくとらえられるようにした。また、高学年では、ネットを利用した調べ学習の機会が増えることから、ネットの情報を安易に自分のものにしてしまう主人公を題材とした資料を作成し、著作権について考えられるようにした。なお、低学年の読み物資料は、児童に親しみやすくするために、動物を主人公としている(前頁図2)。また、興味・関心をもたせるための工夫として、紙芝居とデジタル紙芝居を作成し、資料として提示できるようにした。

各学年の指導の順序としては、まず、「自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己形成を図る」ことをねらいとして内容項目の1を扱う。次に、1の内容を基盤として、「自己を他の人との関わりのなかでとらえ、望ましい人間関係の育成を図る」ことをねらいとして内容項目の2を扱う。最後に、1と2の内容を基盤として、「自己を様々な集団社会や情報社会とのかかわりのなかでとらえ、情報社会を含めた社会の一員として必要な道徳性の育成を図る」ことをねらいとして内容項目の4を扱うこととした。

(4) ワークシートについて

ワークシート(図3)には、中心発問に対する自分の考えや学習のまとめとして感想を記入する欄を設けた。児童が、自分の考えや感想を記入することにより、本時のねらいとする道徳的価値にかかわる自分の生き方について考えを深めると同時に、情報モラルの意識を高め、それを表出させるようにした。また、高学年用のワークシートには、友達との意見交流後に大切だと思ったことを記入する欄を設けた。児童が、考えたことを発表し、確かめ合ったり互いに認め合ったりすることをねらいとした。さらに、保護者に感想を記入してもらうことで、学習内容を家庭と共有し、情報社会で起こりうる様々な問題について共に考え、家庭との連携を図れるようにした。

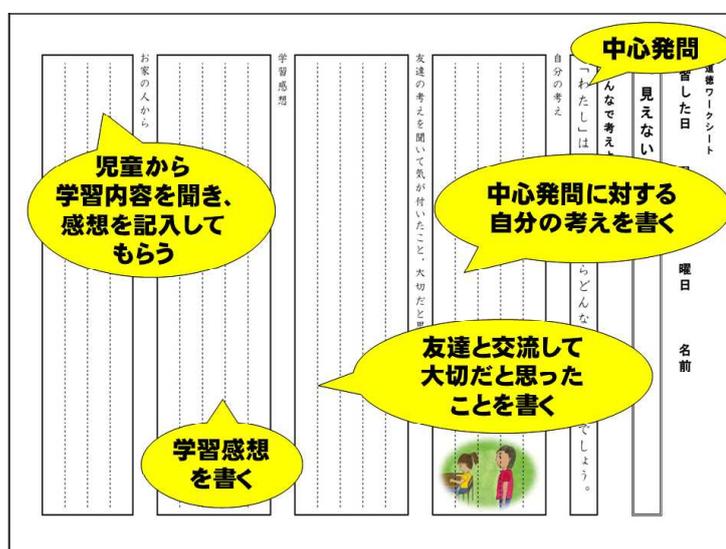


図3 ワークシート「見えない気持ち」

2 児童の情報モラルの意識を高める指導の充実について

(1) 教師の実態

情報モラル教育を推進するためには、教師に情報モラルを指導する能力が要求される。平成19年2月に文部科学省が「教員のICT活用能力」を発表し、その領域の一つに「情報モラルなどを指導する能力」を設け、四つの能力に分類している。この能力に関する調査である「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(平成23年文部科学省)」によれば、情報モラルなどを指導する能力について「わりとしている」若しくは「ややできる」と回答した小学校教員の割合は全国で76.4%であり、群馬県の小学校教員の割合は75.3%である。

同様の調査を協力校において実施した結果をみると、「わりとしている」若しくは「ややできる」と回答した教員の割合は41.3%と全国と群馬県の割合と比較して低いことが分かった。また、過去1年間に、道徳の時間に情報モラルの指導を行ったことがないと答えた教員は、全体の82.4%に上り、その理由として「道徳の時間に活用できる情報モラルに関する題材を扱った資料が少ない」、

関する指導に留意すること」が示されたことにより、道徳の時間に情報モラルを身に付けさせる研究は数多く行われている。情報モラル読み物資料を開発した研究も行われているが、小学校道徳の時間における情報モラル読み物資料に特化した研究は少ない。さらに、既存の資料は、協力校の児童や今日の情報社会の実態に即したものは少なかった。そこで、本研究では、児童の実態に即した小学校の低学年から高学年までを対象とした情報モラル読み物資料を作成し、それらを道徳の学習の時間に活用できるようにした。

4 協力校での実態調査

本研究を進めるに当たって、協力校の児童、低学年149名、中学年134名、高学年141名にゲーム機や携帯電話、スマートフォンの所持、それらの利用状況について調査を行った。

調査結果から、多くの児童が、低学年の頃から毎日ゲーム機で遊んでいることが分かった(図6)。さらに、高学年では、11.2%の児童が2時間以上ゲーム機で遊ぶと回答しており、ゲーム機で遊ぶことが習慣化している。このことから、ゲーム機の利用を制限し健康に気を付け、規則正しい生活の大切さを指導することが必要であるという実態が分かった。

また、自分専用の携帯電話・スマートフォンの所持については、図7のとおりである。全体平均で27.8%の児童が自分専用として所持しており、これは、内閣府の「青少年のインターネット利用環境実態調査」(平成25年)小学生の携帯電話(PHS・スマートフォンを含む)の所有状況の数値24.1%と比較して多い現状が明らかとなった。さらに、携帯電話・スマートフォン、パソコンを使用したメールのやりとりについては、高学年になると、46%以上の児童がメールのやりとりを経験している(次頁図8)。そのうち、メールをやりとりする手段として約30%の児童が、スマートフォンの無料アプリケーションソフトを利用して行っていると回答している。これらのことから、メールのやりをする際は、ルールやマナーを守り、相手への影響を考えて行動することの大切さを指導することが必要であるという実態が分かった。

さらに、Web ページの閲覧について調査したところ、携帯電話やコンピュータを使ってネットに接続し、毎日 Web ページを閲覧している児童は、低学年、中学年で約30%、高学年で約40%いることが分かった(次頁図9)。また、その中で、12.6%の児童がネット上の掲示板を利用したことがあると回答しており、特に、高学年では、1日3時間以上も閲覧をしていると回答している児童もいる。これらのことから、ネットを利用するに当たっては、ルールの存在を知り、それらを守ると共に、自他の情報や権利を大切さを指導することが必要であるという実態が分かった。

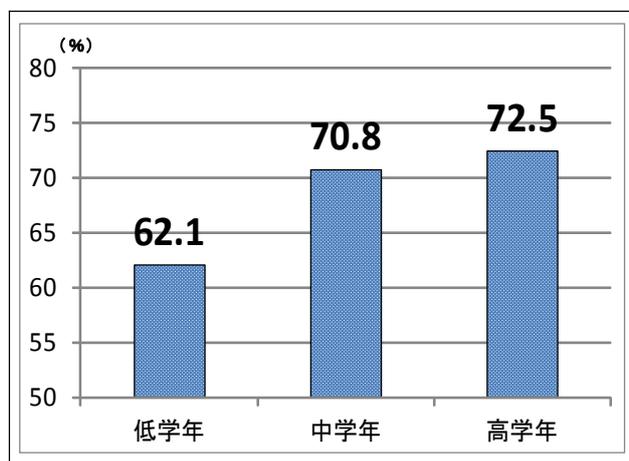


図6 平日30分以上ゲーム機で遊ぶ児童

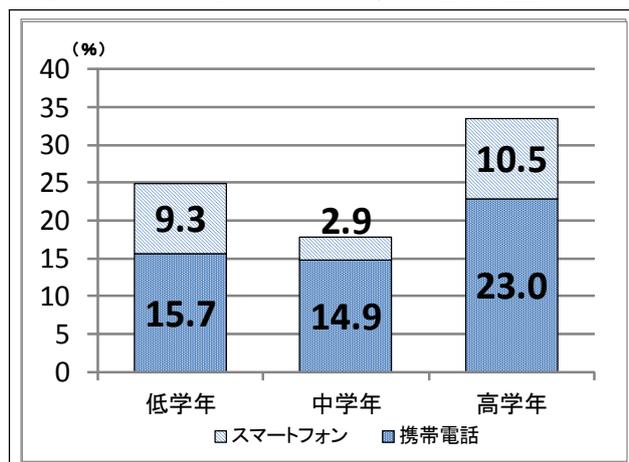


図7 自分専用の携帯電話・スマートフォンを所持している児童

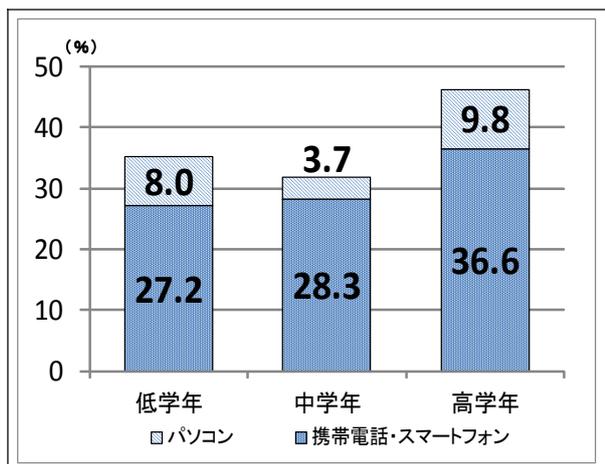


図8 携帯電話・スマートフォンでメールのやりとりをしたことのある児童

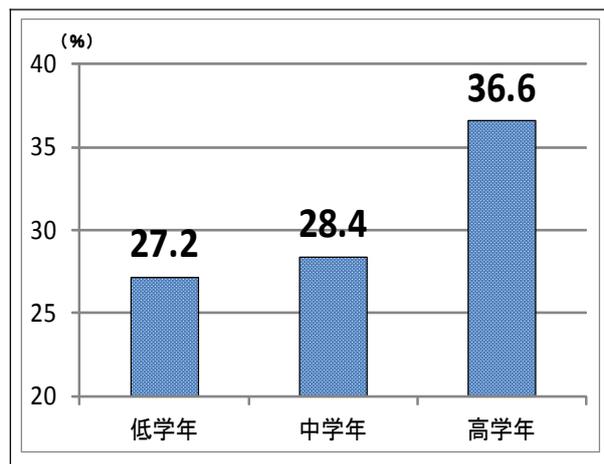


図9 携帯電話・スマートフォンや自宅のコンピュータでWebページを閲覧したことのある児童

5 研究構想図



Ⅶ 実践の計画と方法

1 授業実践の概要

(1) 第1学年における実践計画

対 象	協力校 小学校第1学年 27名		
実践時期	平成25年10月10日～10月31日	授業者	協力校第1学年学級担任
時 間	資料名(主題名)	内容項目	
第1時	いけなかったえんそく(規則正しい生活)	1-(1)節度ある生活態度	
第2時	メールでなかなかおり(友達と仲よく)	2-(3)信頼友情	
第3時	村のおしらせ板(みんなが使う物)	4-(1)公德心、規則の尊重	

(2) 第3学年における実践計画

対 象	協力校 小学校第2学年 30名		
実践時期	平成25年10月10日～10月31日	授業者	協力校第3学年学級担任
時 間	資料名(主題名)	内容項目	
第1時	まさおのなみだ(規則正しい生活)	1-(1)節度ある生活態度	
第2時	手紙とことば(大切な友達)	2-(3)信頼友情	
第3時	クラスの掲示板(きまりを守って)	4-(1)公德心、規則の尊重	

(3) 第6学年における実践計画

対 象	協力校 小学校第6学年(2クラス) 71名		
実践時期	平成25年10月8日～11月1日	授業者	長期研修員 前田 泰伸
時 間	資料名(主題名)	内容項目	
第1、2時	大丈夫だよね(節制に心がけて)	1-(1)節度ある生活態度	
第3、4時	見えない気持ち(友達の気持ちを考えて)	2-(3)信頼友情・男女の協力	
第5、6時	見つけた資料(情報社会の約束)	4-(1)公德心、規則の尊重	

2 検証計画

検証の視点	検証の方法
○児童の身近で起こりうる情報社会の問題を題材とした情報モラル読み物資料を作成し、それらを小学校道徳の時間に活用したことで、児童の情報モラルの意識が高まったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業分析 ・ワークシート分析 ・児童へのアンケート分析 ・他教師への聞き取り調査
○教師が教師用指導資料を活用し、道徳の内容項目と情報モラル教育の内容との関連を意識して学習活動を展開したことで、児童の情報モラルの意識を高める指導の充実が図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業分析 ・実践教師への聞き取り調査 ・ワークシートへの保護者の記述分析

VIII 実践の結果と考察

読み物資料及び、教師用指導資料を活用した授業実践を第1学年、第3学年においては学級担任が、第6学年においては長期研修員が行った。ここでは、授業中の児童の発言、ワークシートの記述内容、及び実態調査の回答結果の比較から分析を行った。

1 授業実践

(1) 第1学年の授業実践

表3 「村のおしらせ板」(みんなが使うもの): 4-(1)公德心、規則の尊重

ねらい 情報モ	●約束やきまりをしっかりと守り、みんなが使う物を大切にしようとする心情を養う。 ★約束や決まりを守る。★人の作ったものを大切にすることを学ぶ。	
	学習活動 ○主な発問 ◎指導のポイント	・児童の発言
導入	1 みんなが使う物の写真を見て、気付いたことを話し合う。 ○これは、何の写真ですか。どのように使っていますか。 ◎みんなが使うものを大切にすると、みんながどのような気持ちになるかを想像させる。	・ブランコ、ほうき、ぞうきん。 ・みんなが使うものだから、大切に使うよ。 ・みんな、いい気持ちになるよ。 ・うれしい気持ちになると思うな。
展開	2 紙芝居で資料「村のおしらせ板」を見る。その後、場面絵を見ながら、主人公「とらきち」の気持ちについて考える。 ◎おしらせ板がたてられたときのとらきちの気持ちを想像させると共に、おしらせ板を大切に使用してほしいという、村長さんの気持ちに気付かせる。 ○おしらせ板にいたずらをしたとらきちは、どんな気持ちだったと思いますか。 ◎とらきちの行為によって、コン太だけでなく、みんなを悲しませてしまったことに気付かせ、相手に与える影響を考えられるようにする。 ○動物たちの悲しい顔を見たとらきちは、どんな気持ちだったと思いますか。	・とらきちは、わくわくしていたと思うな。 ・村長さんは、みんなに大切に使用してほしいと思っていたよ。 ・いたずらっておもしろいな。 ・だれがかいたかわからないから平気だよ。 ・コン太君はとっても悲しい気持ちだったろうな。 ・村長さんもがっかりしただろうな。 ・いけないことをしちゃったな。 ・みんなに悪いことをしちゃったな。
閉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 中心発問 いたずらがきをけしながら、とらきちは、どんなことを考えていたでしょう。 </div> ◎中心発問では、コン太やみんなへの謝罪に終始することのないように配慮し、とらきちは、これからどうすればよいのかを考えられるようにする。	 ・コン太君、いたずらしちゃってごめんね。 ・今度からはやらなければいいのかな。 ・みんなのおしらせ板に落書きしちゃってごめんね。今度から絶対に書かないよ。
	3 これまでの自分を振り返る。 ○みんなが使うものを大切にすることがありますか。 ◎みんなが使うものを大切にすると、みんなが気持ちよく生活することができるよさに気付けるようにする。	・いつも学級の本を大切に読んでいます。 ・みんなですべてのものを大切にしています。 ・みんなが使う物を大切にすると、次に使う人が気持ちよく使えるね。
終末	4 主人公のとらきちに手紙を書く。	

児童のワークシートへの記述から(とらきちへの手紙)

- ・ちょっとのいたずらでも、大変なことになるんだよ。
- ・おしらせ板はみんなの物だから、今度は全体にいたずらしないでね。
- ・大切なおしらせ板にいたずらしちゃだめだよ。村長さんがせっかくだらな物だからね。

保護者のワークシートへの記述から

- ・この道徳の授業で、みんなが使う物、場所を大切にすることを学んだようです。
- ・本人は、ちょっとしたいたずらのつもりでやったことが、いじめや事件などに発展してしまうこともあるので、とてもよい勉強だと思いました。

(2) 第3学年の授業実践

表4 「まさおのなみだ」(規則正しい生活): 1-(1) 節度ある生活態度

ねらい 情報モ	●自ら考えて行動し、節度ある生活をしようとする心情を養う。 ★健康のために利用時間を決め守る。	
導 入	学習活動 ○主な発問 ◎ 指導のポイント 1 ゲームをしているときの気持ちを話し合う。 ○ゲームをしているときはどんな気持ちですか。 ◎ ゲームに夢中になっているときの自分の気持ちと家族の気持ちを想像し、比較させる。	・児童の発言 ・とても楽しいよ。 ・ゲームをやり過ぎてしまうこともあるよ。 ・時間を決めて遊んでいるよ。 ・ぼくは、とっても楽しい気持ちだけど、おうちの人は、嫌な気持ちでいるかもしれないな。
展	2 資料「まさおのなみだ」を読む。その後、場面絵を見ながら、主人公「まさお」の気持ちについて考える。 ○ゲームに夢中になっていまさはどんな気持ちだったと思いますか。 ◎ ゲームに夢中になっているまさおの気持ちに共感させる一方で、まさおのことを心配するお母さんの気持ちを想像させる。 ○下を向いたままだまっていたまさおは、どのようなことを考えたと思いますか。 ◎ 「お母さんが怒らなかったのはどうしてでしょう」と問いかけ、自分でよく考えて生活してほしいという、まさおに対するお母さんの願いに気付けるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 中心発問 お母さんの横顔を見ながら、まさおはどのようなことを考えていたでしょう。 </div>	・おもしろいな。 ・ついつい長い時間遊んでしまうな。 ・お母さんとの約束を守らなくては。 ・リレーの選手になれるかしら。 ・ゲームのやり過ぎで、身体の調子が悪くならないといいけど。 ・選手になれなくて残念だな。 ・遅くまでゲームをしなければよかったな。 ・お母さんとの約束を守ればよかったな。 ・お母さんは、まさおにゲームのやり過ぎはいけないことに気が付いてほしいのだな。 ・まさおは、自分から進んで規則正しい生活をしなければいけないと思うな。
開	◎ 中心発問では、お母さんへの謝罪に終始しないように配慮し、まさおはこれからどうしたらいいのかを考えられるようにする。  3 これまでの自分を振り返る。 ○規則正しい生活をしてよかったとすることがありますか。 ◎ 早寝早起きなど、規則正しい生活を送ることができているときの家族の気持ちを想像させる。	・お母さんの言うことを聞けばよかった。 ・ちゃんと時間通りゲームをして、ちゃんと寝ればリレーの選手になれたのに。 ・早く寝て、きちんと朝ご飯を食べればよかった。 ・お母さんにも迷惑をかけちゃった。今度からは、ゲームを早めにやめるよ。 ・朝、気持ちよく起きることができて、ご飯がたくさん食べられました。 ・元気に学校で過ごすことができました。 ・ゲームばかりしているときよりも、うれしいと思うな。 ・家族みんなで気持ちよく過ごせるよ。
終末	4 本時を振り返り、学習感想を書く。	

児童のワークシートへの記述から (学習感想)

- ・ゲームをするときは、時間を決めてそれを守ることが大切だと思いました。
- ・ゲームより健康でいる方が大切だから、ゲームはあまりやらない方がいいと思いました。
- ・ゲームよりも運動をする、早寝早起きをする方がいいと思いました。

保護者のワークシートへの記述から

- ・ゲームが大好きなうちの子どもにとって、このお話は自分におき換えることができ、心に響いたようです。
- ・我が家でも同じようなことがあるので、子どもと話し合うのにとってもよい機会でした。早く寝ないと身体によくないことや学校へ行っても授業に集中できないことなど、これから気を付けるように話をしました。

(3) 第3学年の授業実践

表5 「見えない気持ち」(友達の気持ちを考えて): 2-(3)信頼友情・男女の協力

ねらい 情報	<p>●友達同士互いに信頼し合い、学び合って友情を深め合おうとする心情を養う。 ★他人や社会への影響を考えて行動する。 ★情報にも自他の権利があることを知り、尊重する。</p>	
導 入	<p>学習活動 ○主な発問 ◎指導のポイント</p> <p>1 メールやりとりの疑似体験を想起する。 ○メールやりとりをしているときは、どんな気持ちだったですか。 ◎メールやりとりをしているときの、相手の気持ちを想像させる。</p>	<p>・児童の発言</p> <p>・とても楽しかった。 ・すぐに返信が来てうれしかった。 ・自分と同じで楽しい気持ちだろうな。 ・返信がないと心配してるのではないかな。</p>
展	<p>2 資料「見えない気持ち」を読む。その後、場面を見ながら、主人公「わたし」の気持ちについて考える。</p> <p>○メールやりとりをしているときの「わたし」は、どんな気持ちだったと思いますか。</p> <p>◎メールやりとりをする「わたし」の気持ちを問いかけ、友達と一層親密な関係になり、メールやりとりにのめり込む「わたし」に気付けるようにする。 ◎無視をされているサチの気持ちを問いかけ、相手の立場になって考えることの大切さに気付けるようにする。</p> <p>中心発問</p> <p>「わたし」は、サチを見ながら、どんなことを考えたのでしょうか。</p>	<p>・楽しいな。 ・無料でできるなんてうれしいな。 ・早く返信が来ないかな。 ・みんな早く返信してくれるから、私も早く返信をしなくてはいけないな。</p> <p>・友達とつながっている気がするな。 ・以前より仲よくなったみたいだな。 ・友達に嫌われたくないから、早く返信しなくてはいけないな。 ・サチはどうして無視されるのかわからなかったのではないだろうか。 ・サチは無視されてかわいそうだな。</p>
開	<p>◎中心発問では、ユリの言葉から「わたし」が考えたことを表現カードに記述するよう促す。その際、少人数で話し合う場を設けることで、多様な感じ方や考え方を交流できるようにする。</p> <p>3 これまでの自分を振り返る。 ○友達との仲が、以前より深まったと感じたことがありますか。 ◎友達関係が良好なときのお互いの気持ちを問うことで、友達関係が深まることよさに気付けるようにする。</p>	<p>・無視して悪いことしちゃったな。サチにも都合があったかもしれないな。 ・もう少し、サチの気持ちを考えてあげればよかったな。 ・サチは私を無視したわけじゃなかった。</p> <p>・校外学習や運動会で協力し合えて、以前よりも友達と仲良しになったな。 ・友達同士、信じ合えるっていいことなのだ。</p>
終 末	<p>4 本時を振り返り、学習感想を書く。</p>	

児童のワークシートへの記述から(学習感想)

- ・メールやりとりをするときは、自分のことだけでなく、相手のことも考えた方がいいと思いました。
- ・メールを使うと楽しいし、気軽にできるけど、相手に気持ちをちゃんと伝えたいときは、自分の言葉で話したい。メールで友達関係が崩れてしまうことがあるということが分かった。

保護者のワークシートへの記述から

- ・携帯電話と友達とのかかり方をよく自分で考えて行動してほしいと思います。このようなことを考えさせてくれる授業はありがたいと思いました。
- ・携帯電話でのトラブルを防ぐためにも、親子で常日ごろから話し合っていきたいと思いました。

2 児童の情報モラルの意識の高まり

(1) 授業中の児童の発言、ワークシートの記述、実態調査の結果から

授業中の児童の発言やワークシートの記述から「おしらせ板はみんなの物だから、いたずらしないで」「早く寝て、きちんと朝ご飯を食べればよかった」「友達のことを信じていきたいと思う」など、ねらいとする道徳的価値に迫る発言や記述が見られた。また、「村長さんがつくってくれたおしらせ板を大切に使う」「ゲームをするときは、時間を決めてそれを守ることが大切」「相手のことを考えてメールのやりとりをした方がいい」など、情報モラルの意識の高まりが感じられる記述も見られた。さらに、本授業実践の事前と事後に実施した、児童の情報モラルの意識に関する質問紙調査の結果からも、情報モラルの意識の高まりが見られた。なお、調査は4件法によるもので、事前（授業前）は、4：とても大切、3：やや大切、2：あまり大切でない、1：大切でない、事後（授業後）は、児童の回答、4：よくできている、3：だいたいできている、2：あまりできていない、1：全然できていない、の割合で比較した。

調査の結果を見ると、第1学年の授業実践のねらいにかかわる項目「みんなで使う物を大切にすること」で、全ての児童が「とても大切」と事後の調査で回答した（図10）。

また、第3学年の授業実践のねらいにかかわる項目「健康のため、パソコンやゲームを使う時間を決めて守ること」では、全ての児童が「とても大切」「やや大切」と事後の調査で回答した（図11）。

第6学年の授業実践にかかわる項目「メールや手紙を送るときは、相手のことを考えて送ること」では、全ての児童が「とても大切」「やや大切」と事後の調査で回答した。特に、「とても大切」と回答した児童は、9.6%増加した（図12）。

このように、児童の意識が高まったのは、以下の要因が考えられる。

まず、児童の身近で起こりうる、情報社会の問題を題材とした資料を扱ったことで、児童は、資料のできごとを身近に感じ、興味関心をもった。特に、第1学年では、紙芝居とデジタル紙芝居による資料提示が児童に有効にはたらいたと考える。

次に、授業実践例の中で、児童は、指導のポイント（表3、4・◎太ゴシック体）である、家族や友達などの「相手」を意識する学習を活動を行った。この活動により、児童は、自分のとった行動が相手にどのような影響を与えるのかを客観的に振り返ることができ、どのように行動すべきであったか考えることができた。

さらに、ワークシートで、自分の考えや感想を表出することで、友達同士で確かめ合ったり、互いに認め合ったりできた。また、家庭で学習した内容を保護者に伝えることで、授業での学習を振り返る共に、考えを深めることができた。これらの活動により、児童は、道徳的価値を自覚し、自分の生き方についての考えを深めることができ、情報モラルの意識が高まったと考える。

これらのことから、情報社会の問題を題材とした情報モラル読み物資料を作成し、それらを小学校道徳の時間に活用することは、児童の情報モラルの意識を高める上で有効であったと考える。

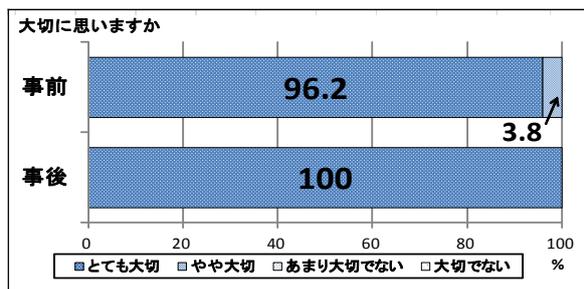


図10 みんなで使う物を大切にすること（1年）

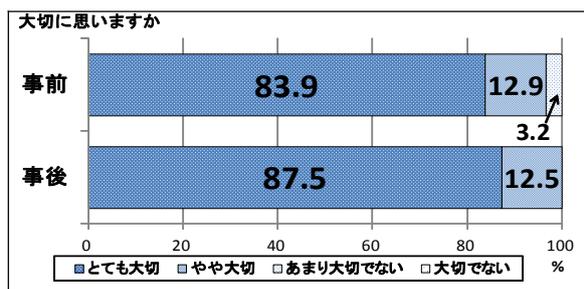


図11 健康のため、パソコンやゲームを使う時間を決めて守ること（3年）

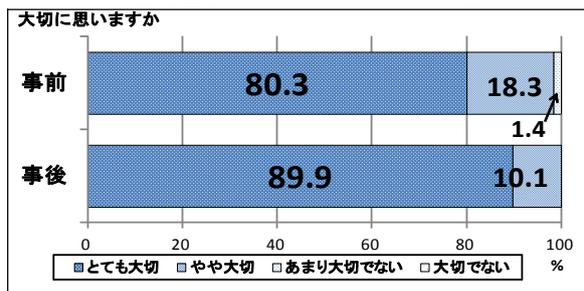


図12 メールや手紙を送るときは、相手のことを考えて送ること（6年）

3 児童の情報モラルの意識を高める指導の充実

(1) 教師の感想や意見、保護者のワークシートへの記述から

低学年、中学年用の読み物資料及び指導例の活用については、第1学年学級担任と第3学年学級担任に依頼した。実践後、学級担任及び授業実践を参観した教師に、聞き取り調査を行った。主な感想や意見(図16)では、「どのような情報モラルの指導の目標を意識して授業をすればよいのかわかってよかった」「指導例には、指導のポイントや板書例が明示されており、これなら実践できそうだ」などの感想を得た。また、保護者のワークシートへの記述(図17)から、児童が家庭で学びを深めたり、保護者が学習内容に関心をもち、児童と話し合ったりする様子が見られた。学校での学びが家庭生活と結びつくことで、児童の情報モラルの意識を高める家庭教育も行われた。

このように、指導の充実が図れた要因は、教師が児童の実態を把握できたということである。児童の実態を踏まえて作成した情報モラル読み物資料を活用することにより、児童にどのような情報モラルの意識を高めていくのかを、教師がしっかりと認識できたために指導がしやすくなったと考える。また、教師が、指導例と教師用読み物資料を活用したことで手だてが具体化し、児童が主体的に学習に取り組めたと考える。指導例に掲載した「情報モラル指導モデルカリキュラムの目標とのかかわり」や「指導のポイント」(表5・◎太ゴシック体)により、児童にどのような情報モラルを身に付けさせればよいのかが明確になったことで、自信をもって指導ができた。さらに、教師用読み物資料に掲載してある朱書きの発問(表5・○主な発問)が、どの場面でどのような発問を児童に投げかければよいのかが明確に分かり、指導に課題を感じることなく行えた。

これらのことから、教師用指導資料を作成し、道徳の内容項目と情報モラル教育の内容との関連を明確にし、指導のポイントを意識しながら学習活動を展開することは、児童の情報モラルの意識を高める指導を充実させる上で有効であったと考える。

- ・紙芝居及び電子紙芝居による資料提示は、資料に対する児童の興味・関心を高めることができた。(第1学年学級担任)
- ・「まさおのなみだ」の読み物資料は、ゲームへの依存は生活を乱し、健康を害してしまうことに気付かせる上で有効にはたっていた。(第3学年学級担任)
- ・「大丈夫だよね」「見つけた資料」の読み物資料は、いずれも児童の実態に即しており、児童は資料の内容を身近に感じることができていた。(第6学年学級担任)
- ・指導例に情報モラル指導モデルカリキュラムの目標とのかかわりが明示されているので、何を意識して授業をすればよいのかがよく分かった。
- ・指導のポイントには、留意すべき点が具体的に示してあるので、どこで、どのように児童に投げかければよいのかが分かり、実践に役立った。(学級担任共通)
- ・低、中、高とそれぞれ、3つずつ資料があり、どの資料でどんな情報モラルの指導をすればよいのかが分かった。
- ・3つ内容項目の授業をどのような順番で実践すればよいかが明確になっているので、計画的に実施できると感じた。(授業実践を参観した教師)

図16 教師の感想や意見

- ・うちの子もゲームが好きです。時間を決めないと夢中になってしまいます。何か強く感じる事ができたと思います。とてもよい内容だと思います。(低学年保護者)
- ・相手がどう思うか、どういうふうに伝わるかと言うことを考えて言葉を選んでほしいと思います。短く分かりやすくても、相手にとっては冷たい言い方に思えることもあるんだということが分かったのではないのでしょうか。(中学年保護者)
- ・インターネットから簡単に情報が得られるようになったのはよいことですが、自分で考えることの大切さがよく分かったと思います。小学生のうちからこのようなことを学んでおく必要があると思いました。(高学年保護者)

図17 保護者のワークシートへの記述

IX 研究の成果と課題

1 成果

- 低学年においては、読み物資料を与えるだけでは、内容の読み取りが難しいと考えた。そこで、紙芝居及び電子紙芝居で提示できるようにした。その結果、導入時では児童の資料への興味・関心を高めることができ、資料の内容を理解させることができたと考えた。
- 中学年においては、児童の生活体験に即し、手紙のやりとりを題材とした資料と教室内に掲示されている掲示板を題材とした資料を作成した。これらの内容を児童は身近に感じ、興味・関心をもち、学習に取り組んだ。学習の感想に「手紙のやりとりをするときは、相手のことを考える」「みんなが使う掲示板を大切に使う」などの記述が見られ、きまりを守り、相手のことを考えて

情報のやりとりをすることの大切さに気付くことができたと考える。

- 高学年においては、実態調査の結果を踏まえ、メールのやりとりなど、具体的な場面を題材とした資料を提示した。しかし、経験の差も考慮し、事前にパソコン室でメールの疑似体験を実施した。また、調べ学習の機会の増加を考慮し、「著作権」を題材とした資料も作成した。いずれも、児童は資料の内容を身近に感じ、資料の登場人物に共感しながら学習を進めることができた。学習の感想からも「メールをするときは、相手のことを考えてメールのやりとりをしたい」「著作権という権利を大切にし、ルールを守ってインターネットを利用したい」などの記述が見られ、情報社会ではルールやマナーを守り、相手への影響を考えて行動することの大切さに気付くことができたと考える。
- 教師の実態調査で、指導方法に課題を感じている実態が明らかとなったため、道徳の内容項目と情報モラル教育の内容との関連を明確にして、指導例に示した。それにより、教師が道徳の時間の中で、情報モラル指導モデルカリキュラムの目標を意識して学習活動を展開することができ、教師の手だても具体化したことで、児童が主体的に学習に取り組めるようになったと考える。

2 課題

- 低学年、中学年、高学年という三つのまとまりで資料を作成したが、例えば、高学年においては、第5学年と第6学年で実態に差が見られた。今後は、資料の数を増やしたり、関連させる道徳の内容項目を変更したりするなど、各学年の実態に応じた資料を作成する必要がある。
- 道徳の授業の中で、児童にどのような情報モラルの意識を高めていくのかは明確になった。しかし、教師が一単位時間の指導の中で、道徳の時間のねらいと情報モラルの指導の目標という二つのねらいと目標をもって学習活動を展開するため、バランスよく指導しなければならないという課題が生じた。

X 今後の展望とさらなる改善策

1 家庭や地域との連携

ワークシートの保護者の欄に、学習内容について共感を得られた記述が多く見られた。これらの記述から、保護者が児童を取り巻く情報社会の問題に関心を高くもつと共に、児童がおかれている状況に危機感を感じていることが分かった。今後は、家庭や地域を対象とした公開授業や親子参加型の授業を実施することで、多くの協力を得られるようにし、連携を深めていきたい。

2 さらなる読み物資料の開発

協力校での授業実践において、自作の読み物資料を活用した授業の効果に期待する教師が多くいた。今後は、本研究に協力してくれた教師と連携し、情報社会の変化をとらえ、児童の実態に即した資料を開発し、指導の充実を図りたい。

<参考文献>

- ・小学校学習指導要領解説 道徳編 文部科学省 (2008)
- ・『「情報モラル」指導実践キックオフガイド』 社団法人 日本教育工学振興会 (2007)
- ・「青少年のインターネット利用環境実態調査」 内閣府 (2013)
- ・赤堀博行 著 『道徳教育で大切なこと』 東洋館出版社(2010)
- ・道徳用読み物「想いとどけて」－指導資料集－ 広島県教科用図書販売株式会社 (2011)

<研究協力校>

高崎市立矢中小学校

<研究協力者>

松本 千鶴 桐生真紀子 長嶋 愛香 神部 純一 井口 克三

<担当指導主事>

鎌田 英喜 飯塚 俊英

道徳の時間に使える
情報モラル読み物資料
低学年用
「村のおしらせ板」

教師用資料、指導例付き



村のおしらせ板^{ばん}

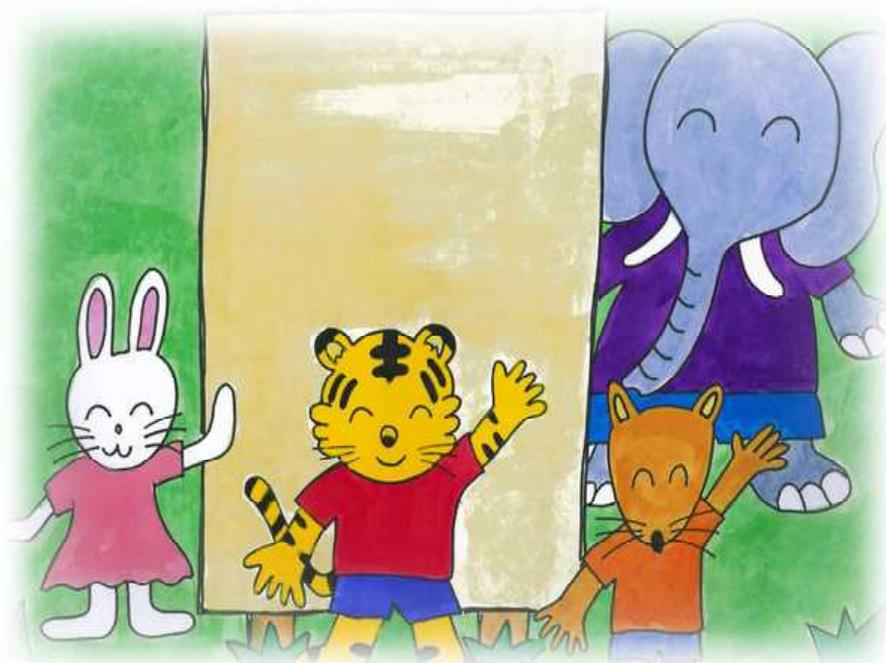
ここは、どうぶつ村。

とらきちと、たくさんのどうぶつたちが、なかよくくらしています。

ある日、ぞうの村^{そんちよう}長さんが、村のひろばに、大きな「おしらせ板」をたてました。

村長さんは、みんなをあつめていいました。

「これは、みんなのおしらせ板です。ここには、みんな^{あそ}で遊んだり、おでかけをしたりするときのおしらせをかきま



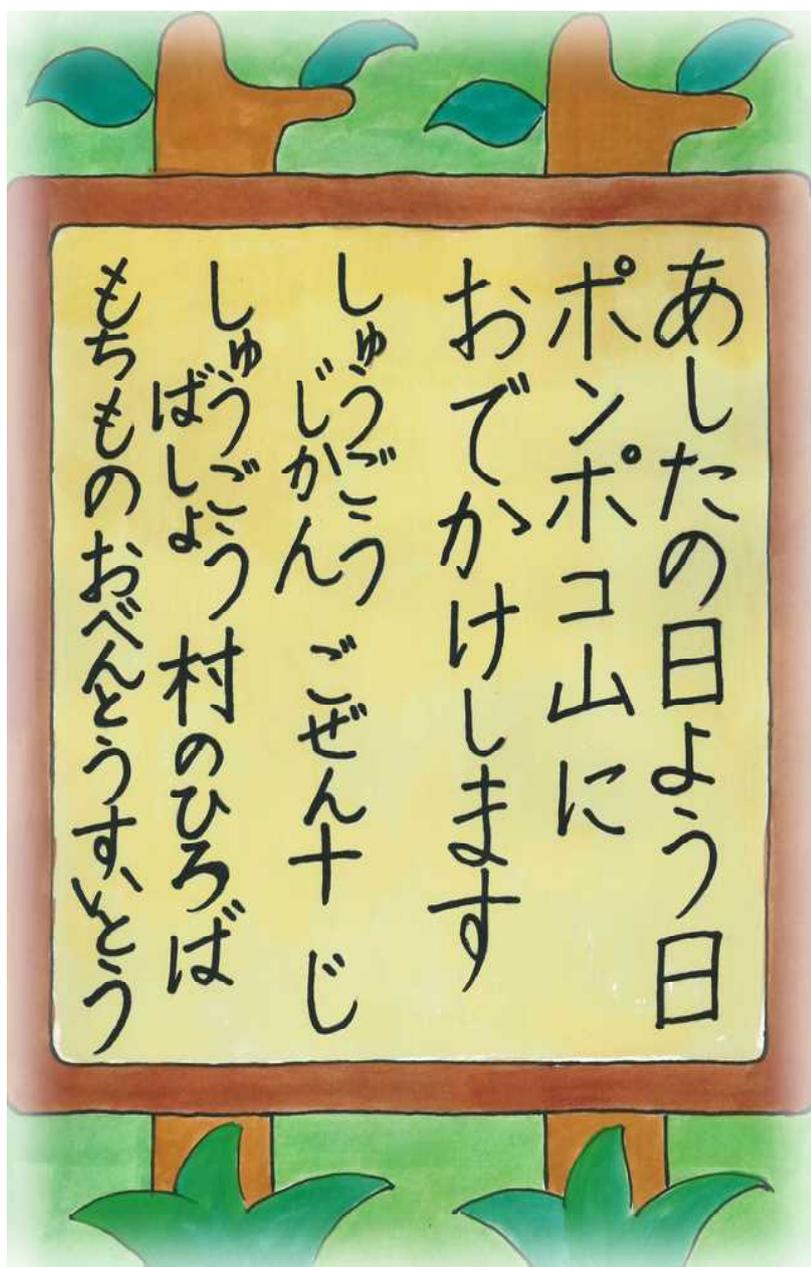
すので、たいせつにしてくださいね。」

「はい。」

と、みんなは元げん氣きにこたえました。

つぎの日。

さっそく村長さんは、おでかけのおしらせをかきました。



みんなは、
おしらせ板をみて、あしたがたのしみになりました。

ゆうがた。

とらきちは、ひとりでおしらせ板のところ
にやってきました。

そのとき、ちょっとだけいたずらをして
しまいました。

「おもしろそうだから、一ぽんぼうをかい
てみよう。」

「ふふ。十一じになっちゃった。」

日よう日。

十じになってもコン太^たくんがやってきません。



「どうしたんだらう。」

「ぐあいでもわるくなっちゃったのかな。」

村長さんがいいました

「しかたありません。しゅっぱつしましょう。」

その日のゆうがた。

みんながもどってくると、ひろばでひとり、
コン太くんがないていました。

「どうしたの。」

「だって、みんないないんだもん。ちゃんと
十一じにきたのに……」

「え、十じだよ」

みんながおどろきました。

そのとき、うさこさんがおしらせばんをさし
ていました。



「あれ、十一じになってるわ。」

「だれがいたずらしたのかしら。ひどいわ。」

「せっかくみんなのためにたてたのに。ざんねんだなあ。」

村長さんは、さびしそうにいいました。

どうぶつたちもかなしそうなかおでしら

せ板をみつめました。

それまでだまっていたとらきちは、おも

いきっていいました。

「ごめんね。コン太くん。」

そして、おしらせ板にかいたいたずらを

けしはじめました。

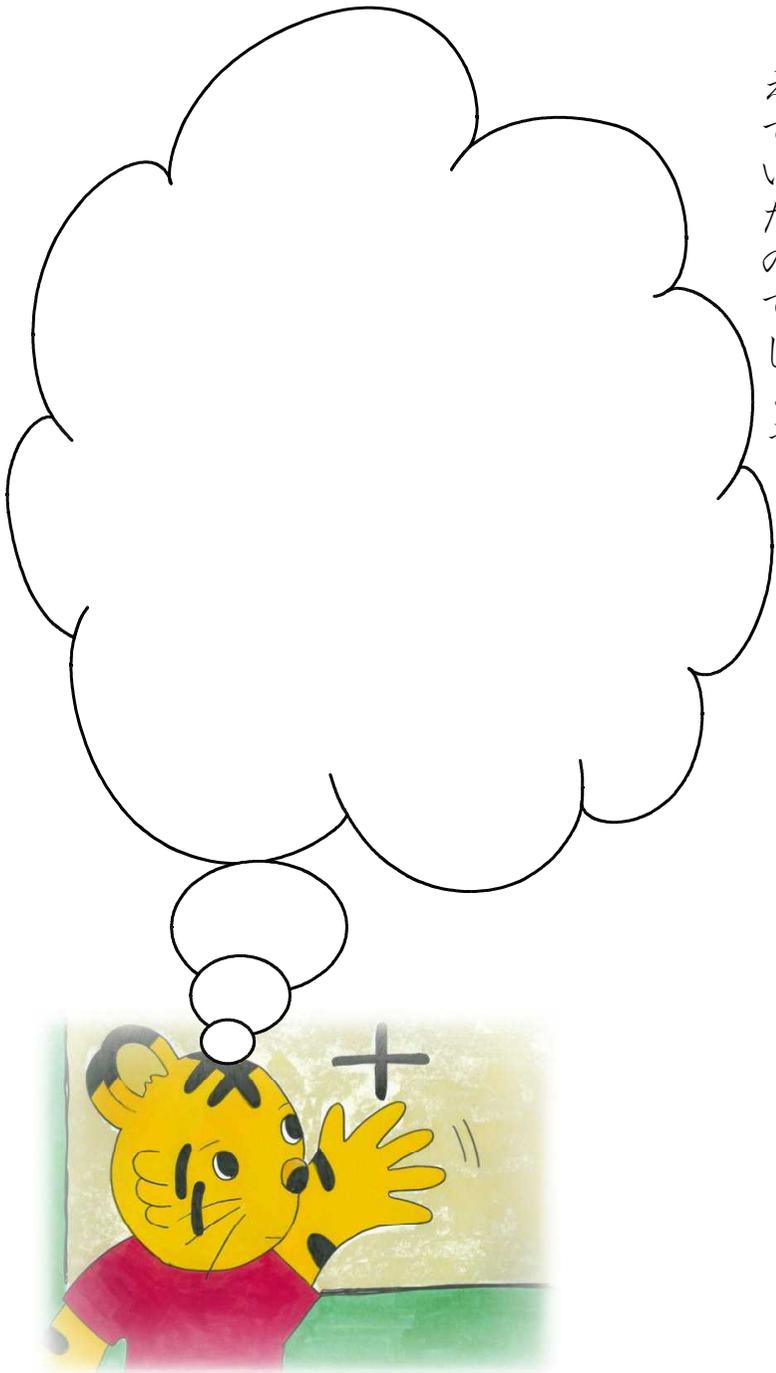


村のおしらせ板

☆みんなでかんがえよう

なまえ

◎いたずらがきをけしながら、とらきちはどんなことをかんがえていたのでしょうか。



○とらきちに、おてがみをかきました。

とらきちへ

より

◆おうちのひとから

村のおしらせ板

1 ねらい 約束やきまりをしっかりと守り、みんなが使う物を大切にしようとする心情を養う。

2 情報モラル指導モデルカリキュラムの目標とのかかわり

積極的にネットワークをよりよくしようとする公共心を育てる

・a1-1 約束や決まりを守る ・b1-1 人の作ったものを大切にすることを

3 あらすじ

主人公の「とらきち」は、村の広場にたてられた「おしらせ板に」落書きをしてしまう。とらきちは、ちょっとしたいたずらのつもりであったが、傷つくコン太や村のみんなが悲しむ様子を見て、その影響の大きさを知り反省する。その後、コン太に謝り、落書きを消し始める。という内容である。

4 指導のポイント

【導入】

①みんなが使う物を大切にすると、みんながどのような気持ちになるかを想像させる。

【展開前段】

②おしらせ板がたてられたときの主人公、とらきちの気持ちを想像させるとともに、おしらせ板をみんなに大切に使ってほしいという、村長さんの願いを押さえる。

③役割演技を通して、自分の行為によって、コン太だけでなく、みんなを悲しませてしまったことに気付かせ、相手に与える影響について考えられるようにする。

④中心発問では、コン太やみんなへの謝罪のみにならないように配慮し、とらきちは、これからどうしたいのかを考えられるようにする。

【展開後段】

⑤みんなが使う物を大切にすると、自分だけでなく、みんなが気持ちよく生活することができるよさに気付けるようにする。

※児童の実態に応じて電子紙芝居を活用する。

5 他教科・領域、家庭・地域等との関連

- ・学級指導や生徒指導の場で、きまりを守って生活したり、みんなが使う物を大切にできたりしているかについて話し合い、できていることを賞賛し、定着できるようにする。
- ・学年、学級通信や授業で使用したワークシート等を通して、学習した内容を家庭に知らせ、協力を得るようにする。

6 板書例

学習活動	時間	主な発問 (予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 写真を見て気付いたことを話し合う。	5分	<p>○これは、何の写真ですか。どのように使っていますか。</p> <p>※みんなで使う物を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊具、ほうき、ぞうきん。 ・みんなが使う物だから大切に使っているよ。 	<p>○みんなの物を使うときは、大切にしなければいけないことに気付かせ、児童の意識をねらいとする道徳的価値へと方向付ける。</p> <p>ポイント①</p>
2 資料を読み、主人公「とらきち」の心の動きを考える。	30分	<p>○おしらせ板をたてた村長さんのお話を聞いたとらきちはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が書かれるのか楽しみだな ・村長さん、早く何か書いてよ。 ・大切に使おう。 <p>○おしらせ板にいたずらをしたとらきちは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいな。 ・誰も見ていないから平気だ。 ・どんなことになるのか楽しみだ。 <p>○村長さんや動物たちの悲しそうな顔をみたとらきちは、どんな気持ちだったでしょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いけないことをしちゃったな。 ・みんなに悪いことをしちゃった。 ・誰がやったかわからないから、まだ平気だ。 <p>◎いたずらがきを消しながら、とらきちはどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんねコン太くん ・村長さん、いたずらしてごめんなさい。 ・みんなを悲しませちゃったな。 ・これからは、おしらせ板を大切にしよう。 ・これからは、みんなが使う物を大切にしたいな。 <p>○これまで、みんなが使う物を大切にすることがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも学級の本を大切に使っています。 ・みんなで使う遊具を大切に使っています。 	<p>○村長さんの言葉に着目させ、みんなで使う物を大切に使うことよさに気付かせる。</p> <p>ポイント②</p> <p>○とらきちのいたずらを通して、物を大切にすることは大事なことだと分かっている、守っていくことは難しいことに気付かせる。</p> <p>○自分の行為が、コン太だけではなく、みんなを悲しませてしまったことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コン太や村長、それを見守るとらきちの役割を演じさせる役割演技を行い、とらきちやコン太、村長の心情に迫れるようにする。 <p>ポイント③</p> <p>◎中心発問により、いたずら書きを消すとらきちの心情について考えることで、公德心に関する価値理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とらきちの言葉を表現カードに書かせることで、みんなの物を大事にする大切さに気付かせる。 <p>ポイント④</p> <p>○とらきちの気持ちから離れ、今までの自分はどうか振り返らせることにより、道徳的価値を自分とのかかわりでとらえさせる。</p> <p>ポイント⑤</p>
3 これまでの自分を振り返る。	10分	<p>○今日の学習を振り返って、とらきちに手紙を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからは、みんなのおしらせ板を大切に使ってね。 ・ぼくもいたずらしちゃったことがあるけど、これからは、みんなが使う物を大切にしようと思うよ。 	<p>○価値を内面化できている児童の手紙を紹介することで、感じ方や考え方の変容や深まりを周囲の児童にも広げられるようにする。</p>

8 評価例

主人公のとらきちに手紙を書く場面で、「みんなが使う物を大切につかうことはいいことだな。みんなのおしらせ板は大切。」などの言葉を含んだ文章を書いているか。

- 情報モラル指導モデルカリキュラムの目標とのかかわり
積極的にネットワークをよりよくしようとする公共心を育てる
- ・a1-1 約束やきまりを守る
- ・b1-1 人の作ったものを大切にすることを

◎主題名：みんなが使うもの
4-(1) 公德心、規則の尊重

〈ねらい〉約束やきまりをしつかりと守り、みんなが使う物を大切にしようとする心情を養う。(公德心、規則の尊重)

村のおしらせ板^{ばん}

導入の発問 みんなの遊具や掃除道具は、どのように使っていますか。
※みんなが使う物を大切にすると、みんながどのような気持ちになるかを想像させる。

ここは、どうぶつ村。

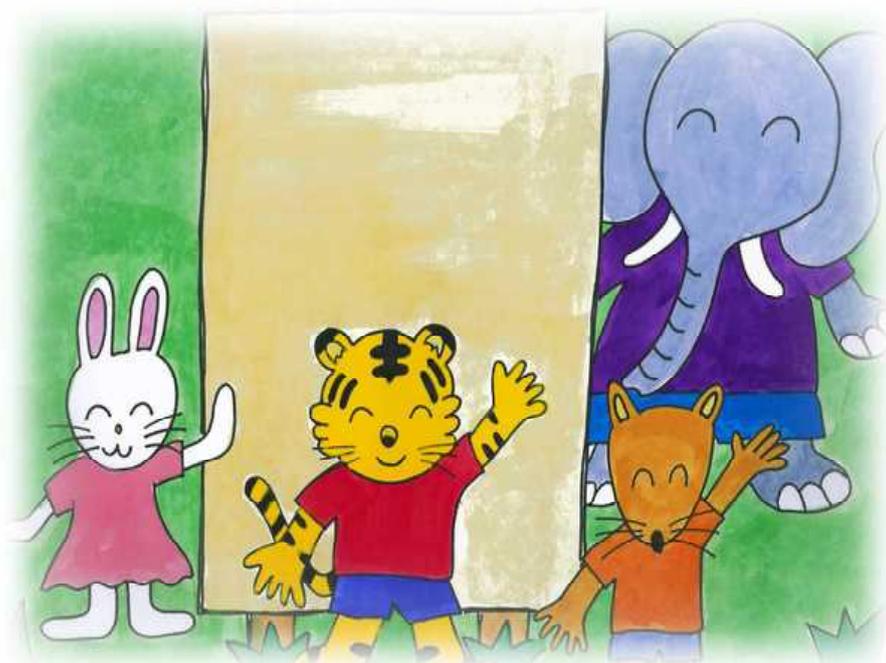
とらきちと、たくさんのどうぶつたちが、なかよくくらしています。

ある日、ぞうの村^{そんちよう}長さんが、村のひ

ろばに、大きな「おしらせ板」をたてました。

村長さんは、みんなをあつめていいました。
・村長さんの言葉に、みんなに大切にしてほしいという願いが込められている。

「これは、みんなのおしらせ板です。ここには、みんな^{あそ}で遊んだり、おでかけをしたりするときのおしらせをかきま



すので、たいせつにしてくださいね。」

「はい。」

発問① 村長さんのお話を聞いたときあなたはどんな気持ちだったでしょう。

と、みんなは元気になったえました。

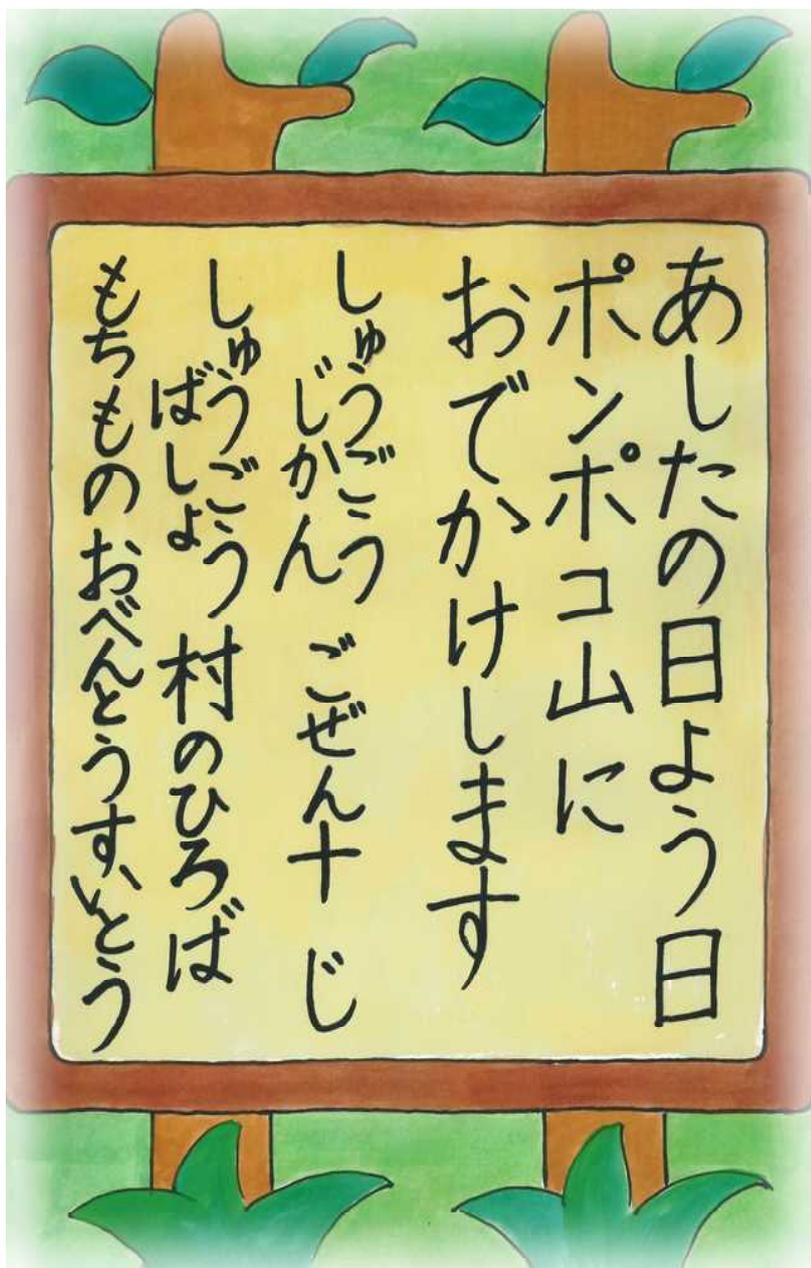
げんき

・どんなことが書かれるのかな。楽しみだな。
・村長さん、早く書いてよ。
・大切に使う。

※村長さんの言葉から、おしらせ板をたてた村長さんの願いを押さえる。

つぎの日。

さっそく村長さんは、おでかけのおしらせをかきました。



みんなは、
おしらせ板をみて、あしたがたのしみになりました。

ゆうがた。

とらきちは、ひとりでおしらせ板のところ
にやってきました。

発問② おしらせ板にいたずらをしたとらきちは、どんな気持ちだったでしょう。

そのとき、ちよつとだけいたずらをして

しまいました。

・軽い気持ちでいたずらをする^{とらきち}。

「おもしろそうだから、一ぼんぼうをかい
てみよう。」

「ふふ。十一じになっちゃった。」

・おもしろいな。
・誰も見ていないから平気だ。
・どんなことになるのかな。

日よう日。

十じになってもコン太^たくんがやってきません。



「どうしたんだらう。」
「ぐあいでもわるくなっちゃったのかな。」
村長さんがいいました
「しかたありません。しゅっぱつしましょう。」

その日のゆうがた。

みんながもどってくると、ひろばでひとり、
コン太くんがいないいました。

「どうしたの。」

※コン太の心情を想像させる。

「だって、みんないないんだもん。ちゃんと
十一じにきたのに……。」

「え、十じだよ」

みんながおどろきました。

そのとき、うさこさんがおしらせばんをさし
ていいました。



「あれ、十一じになってるわ。」 ※うさぎの心情を想像させる。

「だれがいたずらしたのかしら。ひどいわ。」 ※村長さんの心情を想像させる。

「せっかくみんなのためにたてたのに。ざんねんだなあ。」

村長さんは、さびしそうにいいました。

発問③ 動物たちの悲しそうな顔を見たとき、どんな気持ちだったでしょう。

どうぶつたちもかなしそうなかおでおしら

せ板をみつめました。

- ・いけないことをしちゃったな。
- ・みんなに悪いことをしちゃったな。
- ・誰がやったかわからないから、まだ平気だ。

それまでだまっていたとらきちは、おもいきっていいました。

「ごめんね。コン太くん。」

中心発問

発問④

いたずらがきを消しながら、とらきちはどんなことを考えていたでしょう。

そして、おしらせ板にかいたいたずらをけしはじめました。

- ・村長さん、いたずらしてごめんなさい。
- ・みんなを悲しませちゃったな。
- ・これからは、おしらせ板を大切にしよう。
- ・みんなが使う物を大切にしたいな。

後段の発問 みんなが使う物を大切にすることがあります。

※そのときの自分の気持ちや周りの人の気持ちを問うことで、自分だけでなく、みんなが気持ちよく生活できることに気付けるようにする。

・きまりを守ることやみんなの物を大切にすることのよさに気付かせることで、実践意欲が高まるようにする。



道徳の時間に使える
情報モラル読み物資料
中学年用

「まさおのなみだ」

教師用資料、指導例付き



まさおのなみだ

「まさお、もうすぐ運動会ね。今年もリレーの選手になれるといいわね。」
夕ご飯のあと、お母さんが話しかけてきました。

足のはやいまさおは、毎年リレーの選手に選ばれていました。

「どうかなあ。それより、今、いいところなんだから。ちよっとまってよ。」

まさおは、最近買ってもらったゲーム機におちゅうです。お母さんとのやくそくを守らずに、長い時間遊んでしまうこともありました。



リレーの選手を決める日のことです。まさおは、いつもとからだのち
ようしがちがう感じがしました。

「おかしいなあ。なんだか頭がいたい。それに、からだもだるいな。」

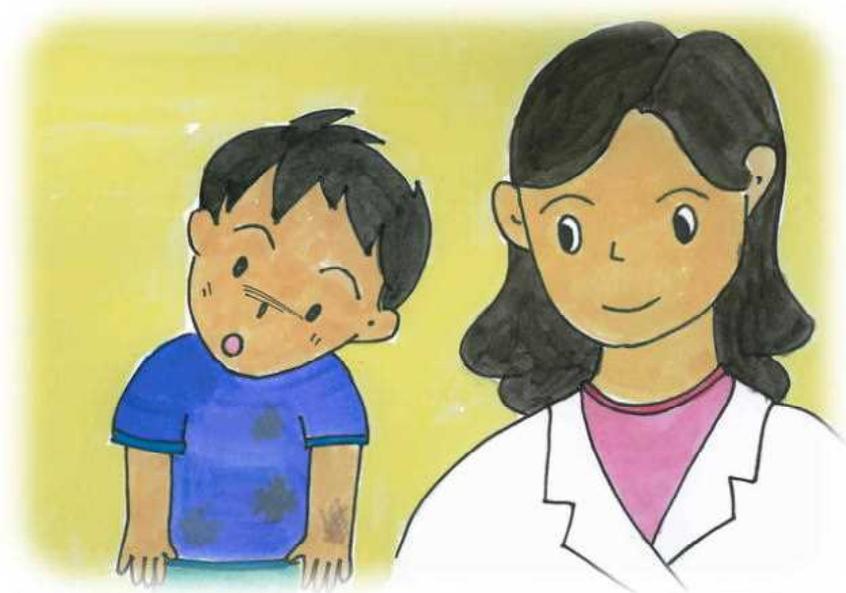
合あ図いずの音でいきおいよくスタートしたまさお
でしたが、いつものように力が入りません。そ
のうえ、と中で目の前がくらくらして、ゴール
の手前でころんでしまいました。

足をけがしたまさおは、先生に保ほ健けん室につ
れていってもらいました。

保健の先生は、まさおの顔をじっと見て言い
ました。

「とくに熱はありませんね。でも、顔色がよく
ないわね。きのうは、早くねたのかしら。」

まさおは、下を向いたまま、だまっていました。



保健の先生の言うとおり、きのうは、夜おそくまでゲーム機で遊んでいたのです。そのために、ねぼうをしてしまい。朝ご飯もあまり食べられなかったのです。

その日は、お母さんにおかえに来てもらい、家に帰ることになりました。帰ると中、おかあさんに

「選手になれなかった…。」

と言うと、

「しかたないわね。来年なれるといいわね。」と、少しざんねんそうにこたえました。

まさおは、お母さんの横顔を見ているうちに、なみだが出てきました。

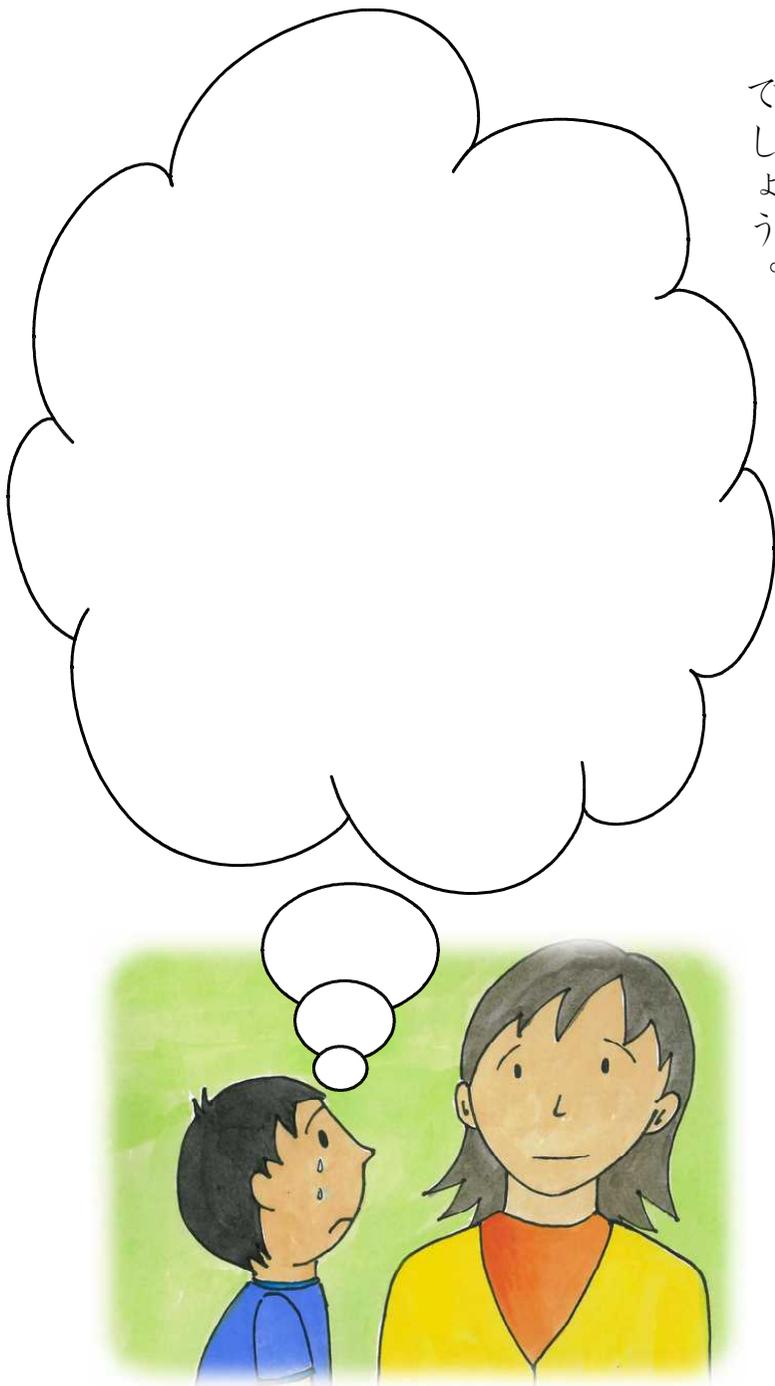


まさおのなみだ

年 組 番 名前

☆みんなで考えよう

◎おかあさんの横顔を見ながら、まさおはどんなことを考えたでしょう。



○今日の学習をふり返って、大切だと思ったことを書きましょう。

◆おうちのひとから

まさおのなみだ

1 ねらい 自らよく考えて行動し、節度ある生活をしようとする心情を養う。

2 情報モラル指導モデルカリキュラムの目標とのかかわり

自分を律し適切に行動できる正しい判断力を養う

- ・f2-1 健康のために利用時間を決め守る

3 あらすじ

主人公の「まさお」は、足が速く毎年運動会のリレーの選手に選ばれている。しかし、選手選考の日、ゲームのやり過ぎが原因で体調を崩し、リレーの選手から外れてしまう。お母さんと一緒に帰り道、ゲームをやり過ぎたことを後悔し、お母さんの横顔を見ながら涙する。という内容である。

4 指導のポイント

【導入】

①ゲームに夢中になっているときの自分の気持ちと家族の気持ちを想像し、比較させる。

※事前にゲーム機の利用時間に関するクラスのアンケート調査を行い、実態に気付けるようにするとともに、資料への興味関心が高まるようにする導入も考えられる。

【展開前段】

②ゲームに夢中になっているまさおの気持ちに共感させる一方で、まさおのことを心配するお母さんの気持ちも想像させる。

③「お母さんが怒らなかったのはどうしてでしょう」と問いかけ、自分でよく考えて生活してほしいという、まさおに対するお母さんの願いに気付けるようにする。

④中心発問では、お母さんへの謝罪に終始しないように配慮し、自分の行為を反省する気持ちや節度ある生活をすればよかったという後悔する気持ちなど、多様な気持ちがあることに気付かせ、まさおは、これからどうしたらよいのかを考えられるようにする。

【展開後段】

⑤早寝早起き等、規則正しい生活を送ることができているときの家族の気持ちを想像させる。

5 他教科・領域、家庭・地域等との関連

・学級活動の時間に、「規則正しい生活を送ることの大切さ」について考え、自分自身の生活の振り返りをするとともに、規則正しい生活を送ることのよさについて話し合う。

・学年、学級通信や授業で使用したワークシート等を通して、学習した内容を家庭に知らせ、協力を得るようにする。

6 板書例

○規則正しい生活を送ることは、いいことなのだ。これからゲームをするときは、自分で決めて遊ぶことが大切なのだ。

○選手になれなくてごめんなさい。これからは、ゲームをやりすぎないようにするよ。自分で時間を決めてゲームをするよ。

お母さんの横顔を見ながら、まさおはどんなことを考えたでしょう。

遅くまでゲームをしなければよかったな。お母さんとの約束を守ってゲームをすればよかったな。

選手になれなくて残念だな。遅くまでゲームをしなければよかったな。

とても楽しいな。やめられないな。やめなくてはいけないな。

お母さん 約束を守ってほしい。ゲームばかりやって仕方ない。

まさおのなみだ

7 展開例

学習活動	時間	○主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 ゲームをしているときの気持ちを話し合う。	5分	○ゲームをしているときはどんな気持ちですか。 ・とても楽しいよ。 ・ゲームをやり過ぎてしまうこともあるよ。 ・時間を決めて遊んでいるよ。	○ゲーム機の画像を提示したり、必要に応じて実物を提示し、資料への興味関心を高める。また、心掛けていることを問うことで、価値への方向付けが行えるようにする。 ポイント①
2 資料を読み、主人公「まさお」の心の動きを考える。	30分	○ゲームに夢中になっているまさおは、どんな気持ちだったでしょう。 ・とても楽しいな。 ・おもしろいな。 ・ついつい長い時間、遊んでしまうな。 ・お母さんとの約束を守らなくてはいけないな。 ○下を向いたままだまっていたまさおは、どのようなことを考えていたのでしょうか。 ・選手になれなくて残念だな。 ・遅くまでゲームをしなければよかったな。 ・お母さんとの約束を守ればよかったな。 ◎お母さんの横顔を見ながら、まさおはどのようなことを考えたでしょう。 ・選手になれなくてごめんなさい。 ・これからは、ゲームをやり過ぎないようにするよ。 ・自分で考え、時間を決めてゲームをするよ。	○夢中でゲームをしているまさおに共感できるようにする。 ・まさおの行動を通して、時間を決めてゲームすることは、大事なことだと分かっている、守ることは難しいことに気付かせる。 ポイント② ○自分の行為を反省する気持や節度ある生活をすればよかったという気持ちなど、多様な気持ちがあることに気付かせる。 ○「お母さんが怒らなかつたのはどうしてでしょう」と問いかけ、自分でよく考えて生活してほしいという、まさおに対するお母さんの願いに気付けるようにする。 ポイント③ ◎中心発問により、表現カードにまさおの考えを想像させ、記入させることで、節度ある生活に関する価値理解を深める。 ポイント④ ○まさおの気持ちから離れ、今までの自分はどうか振り返らせることにより、道徳的価値を自分とのかかわりでとらえさせる。 ポイント⑤
3 これまでの自分を振り返る。		○規則正しい生活をしてよかったと思ったことがありますか。 ・気持ちよく起きることができて、朝ご飯がたくさん食べられた。 ・元気に学校で過ごすことができた。	
4 本時を振り返って、感想を記述したり発表したりする。	10分	○今日の学習を振り返って、大切だと思ったことを書きましょう。 ・規則正しい生活をするのはいいことなのだな。 ・これからゲームをするときは、自分でよく考えて、時間を決めて遊ぶことが大切なのだな。	○価値を内面化できている児童の感想を紹介することで、感じ方や考え方の変容や深まりを周囲に広げられるようにする。

8 評価例

学習感想を書く場面で、「規則正しい生活をするのは大切なこと。健康のため、自分で時間を決めてゲームをすることが大切。」などの言葉を含んだ文章を書いているか。

〈ねらい〉自らよく考えて行動し、節度ある生活をしようとする心情を養う。(節度ある生活態度)

まさおのなみだ

導入の発問 ゲームをしているときはどんな気持ちですか。

※児童自身がゲームに夢中になっているときの自分の気持ちと家族の気持ちを想像し、比較させる。

「まさお、もうすぐ運動会ね。今年もリレーの選手になれるといいわね。」

・まさおに期待をするお母さん。

夕ご飯のあと、お母さんが話しかけてきました。

足のはやいまさおは、毎年リレーの選手に選ばれていました。

「どうかなあ。それより、今、いいところなんだから。ちよっとまってよ。」

発問① ゲームに夢中になっているまさおは、どんな気持ちだったでしょう。

まさおは、最近買ってもらったゲーム機におちゅうです。お母さんと

・ゲームの利用時間について、約束したにもかかわらず、守ることのできないまさおの様子。

のやくそくを守らずに、長い時間遊んでしまうこともありました。

・とても楽しいな。
・ついつい長い時間遊んでしまうな。
・おうちのひととの約束を守らなくてはいけないな。



リレーの選手を決める日のことです。まさおは、いつもとからだのち
ようしがちがう感じがしました。

「おかしいなあ。なんだか頭がいたい。それに、からだもたるいな。」

・ゲームのやりすぎで体調を崩してしまったことをつかませる。

あいず
合図の音でいきおいよくスタートしたまさお
でしたが、いつものように力が入りません。そ
のうえ、と中で目の前がくらくらして、ゴール
の手前でころんでしまいました。
足をけがしたまさおは、先生に保健室につ
れていってもらいました。

保健の先生は、まさおの顔をじっと見て言い
ました。

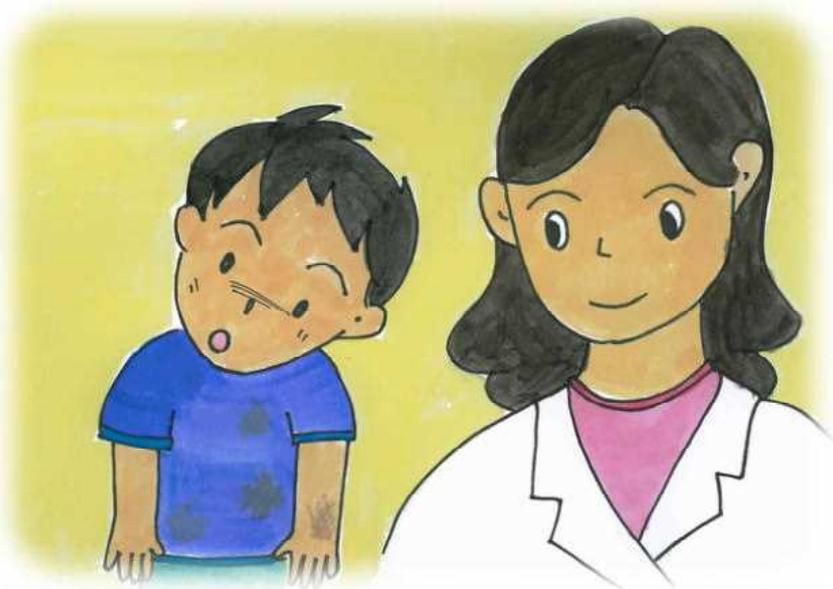
「とくに熱はありませんね。でも、顔色がよく
ないわね。きのうは、早くねたのかしら。」

発問②

下を向いたまま黙っていたまさおは、どのようなことを考えていたでしょう。

まさおは、下を向いたまま、だまっていました。

・選手になれなくて残念だな。
・遅くまでゲームをしなければよかった。
・約束を守ればよかったな。



保健の先生の言うとおり、きのうは、夜おそくまでゲーム機で遊んでいたのです。そのために、ねぼうをしてしまい。朝ご飯もあまり食べられなかったのです。

その日は、お母さんにおかえに来てもらい、家に帰ることになりました。帰ると中、おかあさんに

「選手になれなかった…。」

と言うと、※「お母さんが怒らなかったのはどうしてでしょう」と問いかけ、自分でよく考えて生活してほしいという、まさおに対するお母さんの願いに気付けるようにする。

「しかたないわね。来年なれるといいわね。」
と、少しざんねんそうにこたえました。

中心発問

発問③

お母さんの横顔を見ながら、まさおはどんなことを考えたでしょう。

まさおは、お母さんの横顔を見ているうちに、
なみだが出てきました。

- ・選手になれなくてごめんなさい。
- ・これからは、ゲームをやり過ぎないようにするよ。
- ・自分で考えて、時間を決めてゲームをするよ。

後段の発問 規則正しい生活をしてよかったと思ったことがありますか。

※早寝早起き等、規則正しい生活を送ることができているときの家族の気持ちを想像させる。



道徳の時間に使える
情報モラル読み物資料
高学年用
「見えない気持ち」

教師用資料、指導例付き



見えない気持ち

わたしは、このごろ無料で好きなだけ通話やメールが楽しめるスマホのアプリに夢中だ。

このアプリのことは、同じクラスのユリに教えてもらった。ユリはもう、ずいぶん前からこのアプリを使っているらしく、

「このアプリを使えば、好きなときに好きなだけメールができるのよ。しかも、ただで。」

と、わたしに、じまんそうに教えてくれた。

「クラスの何人かの子は、もうやってるのよ。」

ユリは、クラスの数人の子の名前を教えてくれた。

わたしは、毎日のようにアプリを使って仲間同士でメールをするようになった。内容は、たわいもないことだった。学校でのこと、宿題のこと、ときには友達のうわさ話をすることもあった。

もちろん、学校でも、同じような話はする。でも、家に帰ってからも、仲間とつながってると思うと、なぜかうれしくなった。それに、お互いの秘密ができたような気分になり、よりみんなと親しくなった気がした。

わたしは、みんなからのメールには、なるべく早く返信しようとした。みんなもすぐに返信してくれるからだ。それに、メッセージの横に、『既読と時刻』^{*}が表示され、いつ読んだことがわかるしくみになっているのも、「すぐに返信をしなれば。」と思う理由だ。

^{*}既読と時刻
相手がいつメールを
読んだかがわかる。

しばらくすると、仲良しのサチが、メッセージを送ってもなかなか返信をよこさないことが多くなった。ときには、まったく返信をよこさず、そのまま会話が終わることもあった。アプリの画面をみると、読んでいることだけはわかった。

最初は、どうしたんだろう。と心配になったが、二度、三度と同じことが繰り返されるうちに、なぜか、サチに無視されているような気持ちになった。

ある日、とうとう、我慢ができなくなって、サチにメールをした。

『無視するなんて、サイテー』

『無視するつもりじゃなかったの。ごめんなさい…。』

と、サチからすぐに返信があったが、わたしは無視した。

そのやりとりの後、学校でサチに会っても冷たい態度をとり続けた。



その様子は、他の仲間も感じたようで、ある日の休み時間、ユリが話しかけてきた。

「どうしたの。最近サチと何かあったの。」

ユリは、一人でいるサチの方を見ながら言った。

わたしは、思いきって言った。

「サチって、すぐに返信をよこさないでしょ。読んでるくせに。あれって無視だよね。」

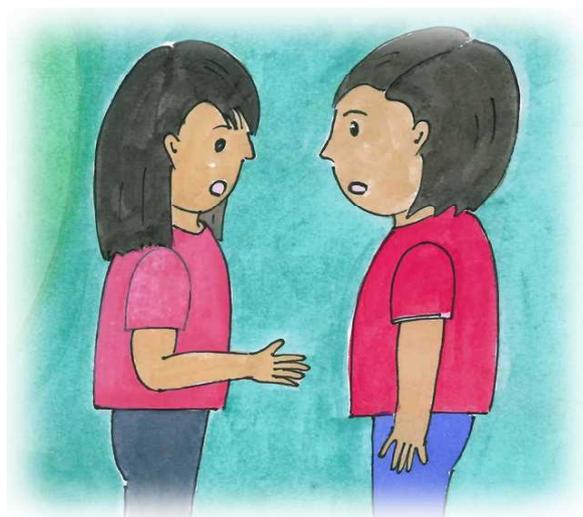
ユリは少し間をおいてから、

「すぐに返信がこないからといって無視されたって考えるのはどうかしら。サチにだって、いろいろ都合があったんじゃないかしら。」

そんなこと言ったって、わたしだって忙しいときもすぐに返信していた。と心の中でつぶやいた。

「だって、一度や二度じゃないのよ。ユリにだって、返事をくれないことだってあったでしょ。」

「うん。あったわ。でも、わたしも、すぐに返信しなければならぬことに少しプレッシャーを感じていたの。ご飯を食べているときも、宿題をやっていると、きも、いつでも、どこにいてもメールが届くでしょ。時々、そのままにしちゃ





おうかな。って思ったこともあったわ。だから、サチの気持ちもわかる気がするわ。」

ユリは続けた。

「もしかしたら、わたしたちのメールのやりとりにより少し無理があったのかもしれないわね。」

わたしは何も言えずにだまっていた。

ふと、サチの方をみると、相変わらずうつむきかげんに一人で自分の席に座っていた。

わたしは、サチを見ながら、これまでサチにとって態度を思い出し
ていた。

わたしは、家に帰るとすぐにスマホを取り出し、

『サチ、ごめん…。』と打ち始めた。

しかし、途中まで打ってすぐにやめた。

明日学校できちんと自分の気持ちを言葉で伝えようと思った。



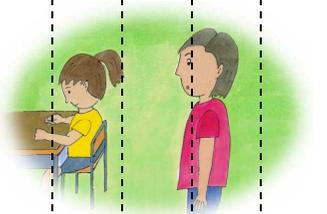
学習した日 月 日 曜日 名前

見えない気持ち

☆みんなで考えよう

「わたし」は、サチを見ながらどんなことを考えたのでしょうか。

自分の考え



友達の考えを聞いて気が付いたこと、大切だと思ったこと

学習感想

お家の人から

見えない気持ち

- ねらい 友達同士互いに信頼し合い、学び合って友情を深め合おうとする心情を養う。
- 情報モラル指導モデルカリキュラムの目標とのかかわり
 相手を思いやる豊かな心情を養う・a3-1 他人や社会への影響を考えて行動する
 ・b3-1 情報にも自他の権利があることを知り、尊重する

3 あらすじ

主人公の「わたし」は、スマートフォンのアプリケーションソフトを使い、友達同士でメールのやりとりに夢中になる。しばらくすると仲良しのサチが、メールの返信に時間がかかることが多くなり、返信をよこさないことも出てきた。最初は心配していた「わたし」だったが、『無視するなんて、サイテー』と怒りのメールをサチに送ってしまう。あるとき、二人の様子を心配したユリから、自分もすぐに返信しなければならないことにプレッシャーを感じ、メールのやりとりの仕方に疑問を感じていたことを打ち明けられ、サチのことを理解し、謝ろうと考える。という内容である。

4 指導のポイント

【導入】

- ①事前に行ったメールの疑似体験を想起し、メールのやりとりをしているときの相手の気持ちを想像させる。

【展開前段】

- ②メールのやりとりをする「わたし」の気持ちを問いかけ、友達と一層親密な関係になり、メールのやりとりにのめり込んでいく「わたし」に気付けるようにする。
- ③無視されているサチの気持ちを問いかけ、相手がどのような気持ちでいるのかを考えられるようにする。
- ④中心発問では、ユリの言葉を押さえてから、「わたし」が考えたことを表現カードに記述するよう促す。その際、少人数で話し合う場を設けるなど、話し合いの場を工夫し、多様な感じ方や考え方を交流できるようにする。

【展開後段】

- ⑤友達関係が良好なときのお互いの気持ちを問うことで、友情を深め合うことのよさに気付けるようにする。

5 他教科・領域・家庭・地域等との関連

- ・日常の学習活動や係活動、委員会活動などで、友達と協力している様子を見とり、賞賛する。
- ・学年、学級通信や授業で使用したワークシート等を通して、学習した内容を家庭に知らせ、協力を得るようにする。

6 板書例



○友達同士、信じ合えることが大切だな。

○メールをするときは、相手のことを考えることが大切だな。

○ルールを決めてメールのやりとりができるといいな。



- ・無視してごめんなさい。
- ・自分のことしか考えてなかった。
- ・サチの気持ちを考えてあげられなかった。
- ・返信がなくてもサチのことを信用するね。

「わたし」は、
どんなことを考えたでしょう。



ユリ

「サチにだって都合があったのかも」「私もプレッシャーがあった」「メールのやりとりに無理があった」



サチ
悲しいな。
どうして無視されるのだろう。

サチが返信してこなかったから。無視されたから、無視しよう。



わたし

「わたし」



サチ

サチ

見えない気持ち

メールのやりとりは楽しいな。いつも友達とつながっているな。秘密ができたみたいだな。早く返信しよう。

相手に悪いし、みんなもしているから。

- 資料31 -

7 展開例

学習活動	時間	○主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 メールのやりとりの疑似体験を想起する。 ※	5分	○メールのやりとりをしているときは、どんな気持ちでしたか。 ・楽しかった。 ・すぐに返信が来てうれしかった。 ・返信が来なくてさびしかった。 ・自分の気持ちが上手く伝わらなかった。	○疑似体験によるメールのやりとりの経験を共有させることで、資料への関心を高められるようにする。 ポイント①
2 資料を読み、主人公「わたし」の心の動きを考える。	30分	○メールのやりとりをしているときの「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。 ・仲間とつながっているな。 ・より親しくなった気がするな。 ・早く返信しなくてはいけないな。 ○サチに冷たい態度をとり続けたのはどうしてでしょう。 ・サチが返信をよこさなかったから。 ・無視されたような気持ちになったから。 ◎「わたし」は、サチを見ながらどんなことを考えたのでしょうか。 ・無視して悪かったな。 ・もう少しサチのことを考えてあげればよかったな。 ・これからは、サチの都合も考えよう。 ・メールの返信がなくても、サチのことを信用するよ。 ○「わたし」はどうして直接言葉で伝えようと思ったのだろう。 ・サチが喜ぶと思ったから。 ・自分の気持ちがきちんと伝わると思ったから。	○「わたし」の気持ちを問いかけ、友達同士一層親密になれた、という気持ちになり、メールにのめり込んでいる「わたし」に気付けるようにする。 ポイント② ○早く返信しようとしていた「わたし」とは反対に、返信をしないサチを許せないと思う「わたし」の気持ちの弱さに気付けるようにする。 ポイント③ ◎中心発問では、ユリの言葉を押さえてから、「わたし」が考えたことを表現カードに記述するよう促す。その際、少人数で話し合う場を設けるなど、話し合いの場を工夫し、多様な感じ方や考え方を交流できるようにする。 ポイント④ ○「わたし」の行動を通して、大切なことは、相手に直接言葉で伝えることが大切であるということに気付けるようにする。
3 これまでの自分を振り返る。		○友達との関係が以前より仲よくなったと感じたことがありますか。 ・学校行事で、友達同士協力し合ったことで、前よりも仲がよくなった。 ・喧嘩をしたとき、自分の気持ちをきちんと伝えて仲直りができ、前よりも仲良しになった気がした。	○今までの自分がどうであったかを振り返ることで、自分とのかのかかわりで「友情の深まり」をとらえられるようにする。 ポイント⑤
4 本時を振り返り、学習感想を書く。	10分	○今日の学習で大切だと思ったことを書きましょう。 ・友達同士信じ合えるっていいことなのだ。 ・友達とルールを決めてメールのやりとりをすることが大切なのだ。	○学習して大切だと思ったことを表現カードに記述する場を設けることで、道徳的価値の自覚化を図れるようにする。

※事前にパソコンソフトを利用したメールの疑似体験をする活動を行い、相手のメールから受ける影響や自分が発信するメールが相手に及ぼす影響について考える機会をもつ。

8 評価例

学習感想を書く場面で、「友達同士で信じ合えることはいいこと。友達とルールを決めてメールのやりとりをすることが大切。」などの言葉を含んだ文章を書いているか。

- 情報モラル指導モデルカリキュラムの目標とのかかわり
相手を思いやる豊かな心情を養う
- ・a3-1 他人や社会への影響を考えて行動する
- ・b3-1 情報にも自他の権利があることを知り、尊重する

〈ねらい〉友達同士互いに信頼し合い、学び合って友情を深め合おうとする心情を養う。

見えない気持ち

導入の発問 メールやりとりをしているときは、どんな気持ちでしたか。

※事前に行ったメールの疑似体験を想起し、メールやりとりしているときの相手の気持ちを想像させる。

わたしは、このごろ無料で好きなだけ通話やメールが楽しめるスマホのアプリに夢中だ。

このアプリのことは、同じクラスのユリに教えてもらった。ユリはもう、ずいぶん前からこのアプリを使っているらしく、

「このアプリを使えば、好きなときに好きなだけメールができるのよ。しかも、ただで。」

と、わたしに、じまんそうに教えてくれた。

「クラスの何人かの子は、もうやってるのよ。」

ユリは、クラスの数人の子の名前を教えてくれた。

わたしは、毎日のようにアプリを使って仲間同士でメールをするようになった。

内容は、たわいもないことだった。学校でのこと、宿題のこと、ときには友達

のうわさ話をすることもあった。

※友達と一層親密な関係になり、メールやりとりにのめり込んでいく「わたし」に気付けるようにする。

もちろん、学校でも、同じような話はする。でも、家に帰ってからも、仲間とつながっているとすると、なぜかうれしくなった。それに、お互いの秘密ができた

ような気分になり、よりみんなと親しくなった気がした。

わたしは、みんなからのメールには、なるべく早く返信しようとした。みんなもすぐに返信してくれるからだ。それに、メッセージの横に、『既読と時刻』が表示され、いつ読んだことがわかるしくみになってきているのも、「すぐに返信をしなれば。」と思う理由だ。

発問① メールのやりとりをしているときの「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。

- ・仲間とつながっているな。
- ・とても仲よくなった気がするな。
- ・早く返信しなければいけないな。

しばらくすると、仲良しのサチが、メッセージを送ってもなかなか返信をよこさないことが多くなった。ときには、まったく返信をよこさず、そのまま会話が終わることもあった。アプリの画面をみると、読んでいることだけはわかった。最初は、どうしたんだろう。と心配になったが、二度、三度と同じことが繰り返されるうちに、なぜか、サチに無視されているような気持ちになった。

ある日、とうとう、我慢ができなくなって、サチにメールをした。
『無視するなんて、サイテー』

『無視するつもりじゃなかったの。ごめんなさい…。』
と、サチからすぐに返信があったが、わたしは無視した。

発問② サチに冷たい態度をとり続けたのはどうしてでしょう。

- ・サチが返信しなかったから。
- ・無視されたような気持ちになったから。

そのやりとりの後、学校でサチに会っても冷たい態度をとり続けた。

※無視されているサチの気持ちを問いかけ、相手がどのような気持ちでいるのかを考えられるようにしたい。



*既読と時刻
相手がいつメールを
読んだかがわかる。

その様子は、他の仲間も感じたようで、ある日の休み時間、ユリが話しかけてきた。

「どうしたの。最近サチと何かあったの。」

ユリは、一人でいるサチの方を見ながら言った。

わたしは、思いきって言った。

「サチって、すぐに返信をよこさないでしょ。読んでるくせに。あれって無視だよね。」

ユリは少し間をおいてから、

「すぐに返信がこないからといって無視されたって考えるのはどうか

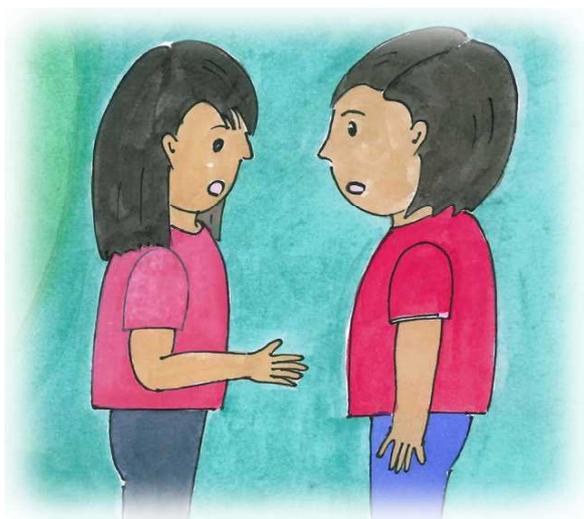
しら。サチにだって、^{ユリの言葉①}いろいろ都合があったんじゃないかしら。」

そんなこと言ったって、わたしだって忙しいときもすぐに返信していた。と心の中でつぶやいた。

「だって、一度や二度じゃないのよ。ユリにだって、返事をくれないことだってあったでしょ。」

「うん。あったわ。でも、わたしも、^{ユリの言葉②}すぐに返信しなければならぬことに少し

プレッシャーを感じていたの。ご飯を食べているときも、宿題をやっていると
きも、いつでも、どこにいてもメールが届くでしょ。時々、そのままにしちゃ





おうかな。って思ったこともあったわ。だから、サチの気持ちもわかる気がするわ。」

ユリは続けた。

・ユリの言葉③

「もしかしたら、わたしたちのメールのやりとりを少し無理があったのかもしれないわね。」

わたしは何も言えずにだまっていた。

・ユリの言葉から「わたし」がどのようなことを考えたのかを想像させ、中心発問へとつなげたい。

ふと、サチの方をみると、相変わらずうつむきかげんに一人で自分の席に座っていた。

中心発問

発問③

「わたし」は、サチを見ながら、どんなことを考えたのでしょうか。

わたしは、サチを見ながら、これまでサチにとった態度を思い出し

ていた。

- ・無視して悪かったな。
- ・もう少しサチのことを考えてあげればよかったな。
- ・メールの返信がなくても、サチのことを信用するよ。

わたしは、家に帰るとすぐにスマホを取り出し、

『サチ、ごめん…。』と打ち始めた。

しかし、途中まで打ってすぐにやめた。

発問④

「わたし」はどうして直接言葉で伝えようと思ったのだろう。

- ・サチが喜ぶと思ったから。
- ・自分の気持ちがきちんと言葉で伝えようと思ったから。

明日学校できちんと言葉で伝えようと思った。

後段の発問

友達との関係が以前より仲よくなったと感じたことがありますか。

※友達関係が良好なときのお互いの気持ちを問うことで、友情を深め合うことのように気付けるようにする。

